英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES

空の軌跡
TRAILS IN THE SKY

SECOND CHAPTER

SC

漫画 啄木鳥しんき
Kitsutsuki Shinki

原作 日本ファルコム
Nihon Falcom Corp.

英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡
TRAILS IN THE SKY
SECOND CHAPTER
SC

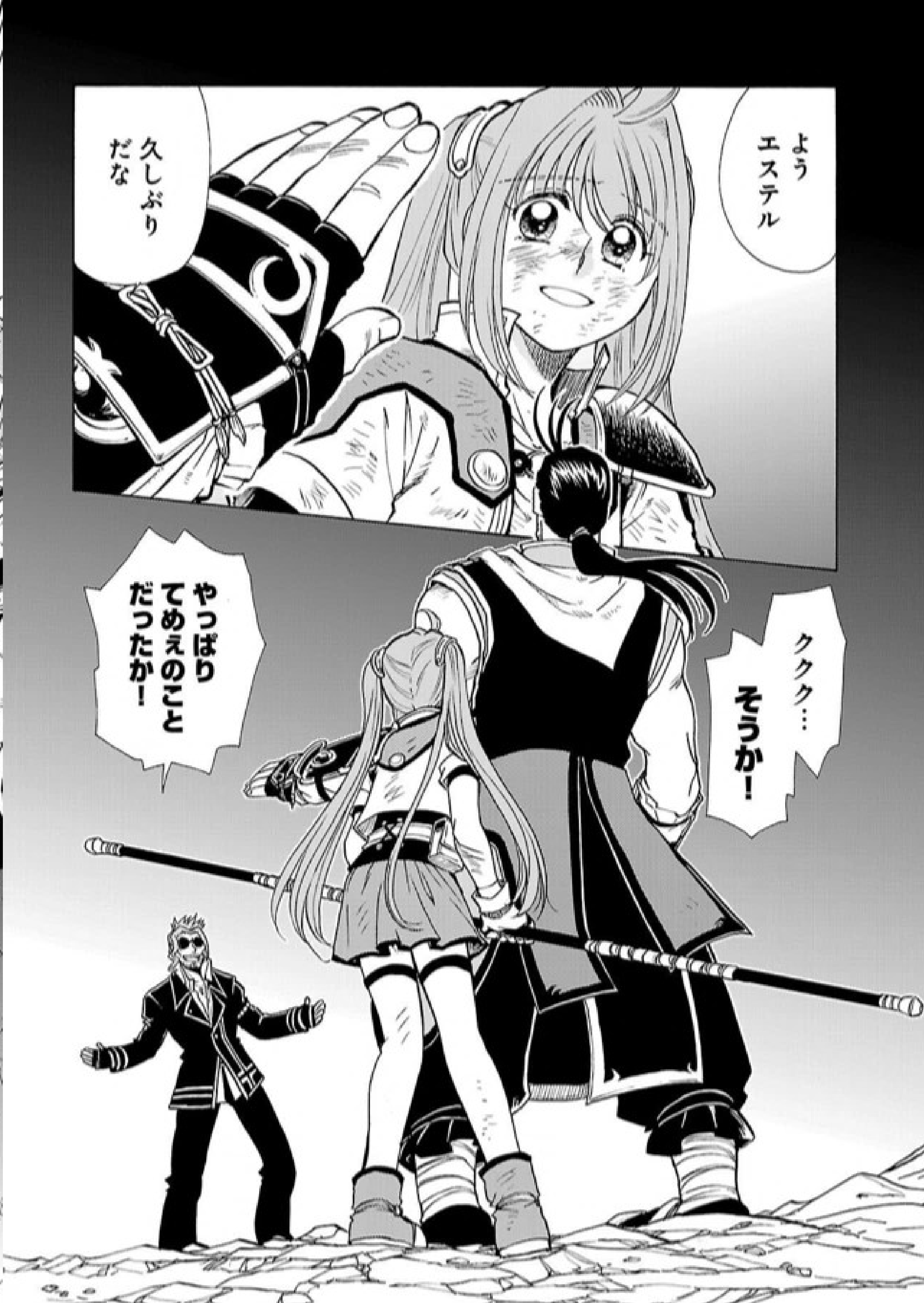
英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡
TRAILS IN THE SKY
SECOND CHAPTER
SC

漫画 啄木鳥しんき
Kitsutsuki Shinki
原作 日本ファルコム
Nihon Falcom Corp.

英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡
TRAILS IN THE SKY
SECOND CHAPTER

目次

第13話
第14話
第15話
第16話
第17話
第18話
最終話
あとがき
電子版オマケ


ようエステル
久しぶりだな
ククク…そうか!
やっぱりてめぇのことだったか!

ジン!!
まさかこんな場所であんたと再会するとはな
ヴァルター

あんた…
いつから結社なんぞに足を突っ込んでいやがるんだ？
あの後すぐにな
結社からスカウトされちまってよ
なかなか刺激的な毎日を過ごさせてもらってるぜ
おかげで
こうして
新たな刺激にありつけるしな！
く…！
馬鹿なことを…
ヴァルターあんたは…
自分が一体何をしているのか…
わかってるのか？

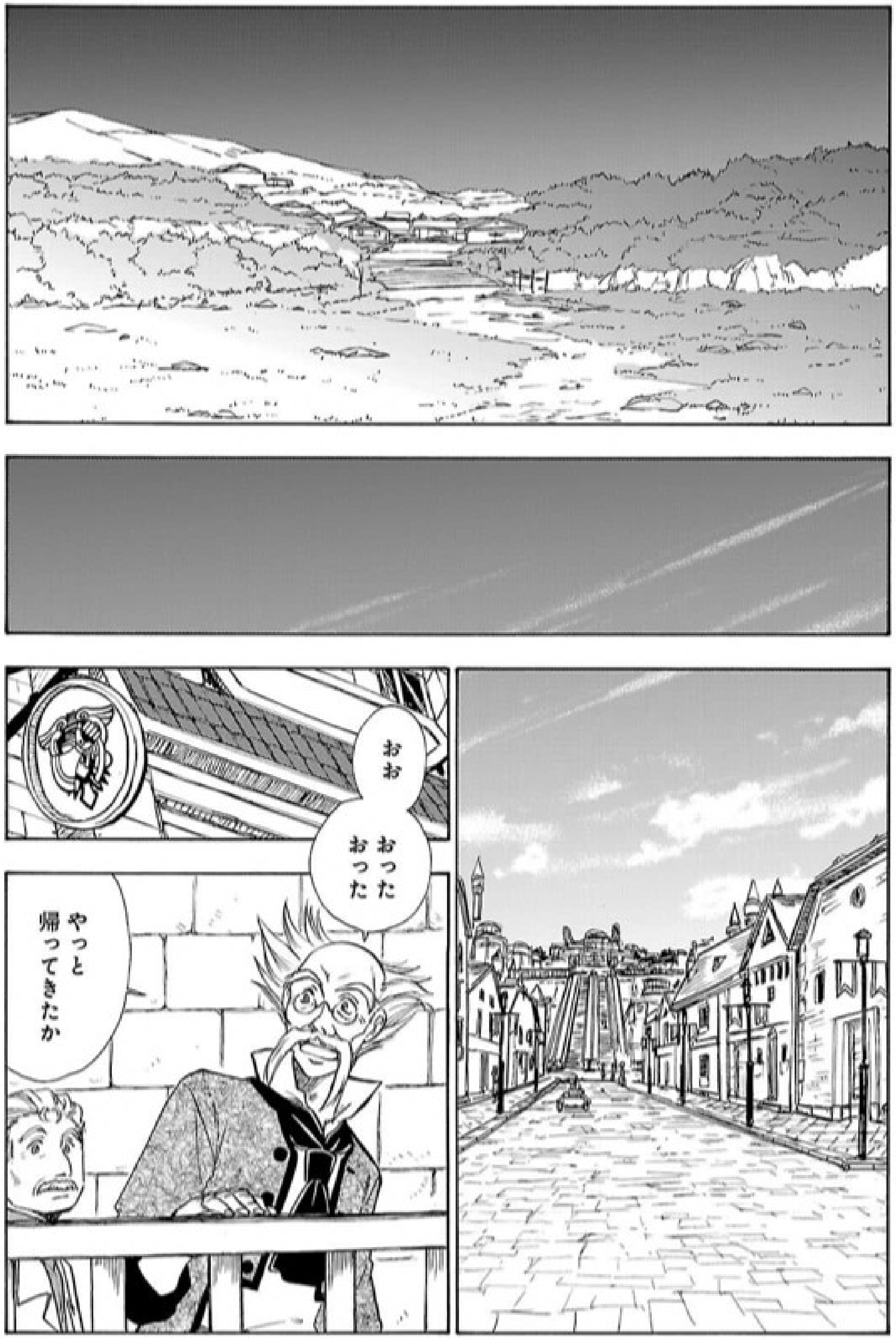
そんなんじゃいつまでたってもリュウガ師父(せんせい)が浮かばれないだろ
今さら綺麗事を抜かすなよ
てめぇは知ってるんだろ？
俺がどんな道を選んだのかを！
だったらあんたは
知っているのか？

ツァイスの街に
キリカがいるのを
な…!?
今はツァイスで遊撃士協会の受付をやってるがな
それまでは大陸各地を回ってたらしい
あいつは間違いなくあんたに会いたがっているはずだ
一度くらい顔を見せてやったら…

バッ
ガァン
ザザザ
きゃ
ふざけたことを抜かすと…
殺すぞ

ヴァルター
…まあいい
ともかく
おい！
てめぇに会えたのは幸運だったぜ
次に会う時までせいぜい功夫を練っておけ
じゃあな
ヴァルター！！

待てよ！
ヴァルター！！
ふらっ
おおう！？
アガットさぁんっ
大丈夫だ！傷は浅いよ！
よっこいしょ！
とにかくひとまず洞窟を出よう！
おお！！


おお
おった
おった
やっと
帰ってきたか

博士に
工房長さん
ただいまぁ
ふたりとも
身体の調子は
どうじゃ？
もう
すっかり！
エルモ温泉で
あったまってきた
おかげかな
そうか
そうか
コテンパンに
やられたと
聞いてたが
元気そうで
よかったわい！
たはは
おお…
それか？
結社に
壊されたと
いう重剣は
こりゃ見事に
ポッキリ
いかれとるの―！
こ…この強度の合金を
素手でへし折って
しまうんですか…!?

本当に結社の人間というのは
恐ろしい相手だったんじゃのう…
アガットエステル
礼を言わせてもらうぞ
ティータを…
わしの大事な家族を守ってくれてありがとうな
そんな…
お礼を言うのはこっちの方よ
ティータたちがジンさんを連れてきてくれたからあたしたちは助かったんだもの
そうでなくてもティータの導力器（オーブメント）の知識にはいっつも助けられてるしね！

殊勝な奴らじゃのう
そんな遊撃士たちにわしらも何かしてやれんかと思ってな
アガット！
おまえさんのこの重剣じゃがな
そいつの修理
えっへん
!!
わしらツァイス中央工房が全力で引き受けてやろう！
かっかっか！
えっ
どうじゃ？嬉しかろう！
絶対折れない刃身の強度はもちろんのこと
きゃあああ
あらゆる事態に対処できるよう各種オプションも着脱可能な超ウルトラDX武器をこしらえてやるからの!!
よかったわねアガット！
ああ
そうだな…

武器がねぇと
何もできねぇしな
お！
おまえさんたちも戻ってきてたか！
どーだ？痛いところとかはないか？
うん！ありがとうジンさん！
もうヘーキ！
そりゃあなによりだ
それじゃあ
仕事の話を始めましょう

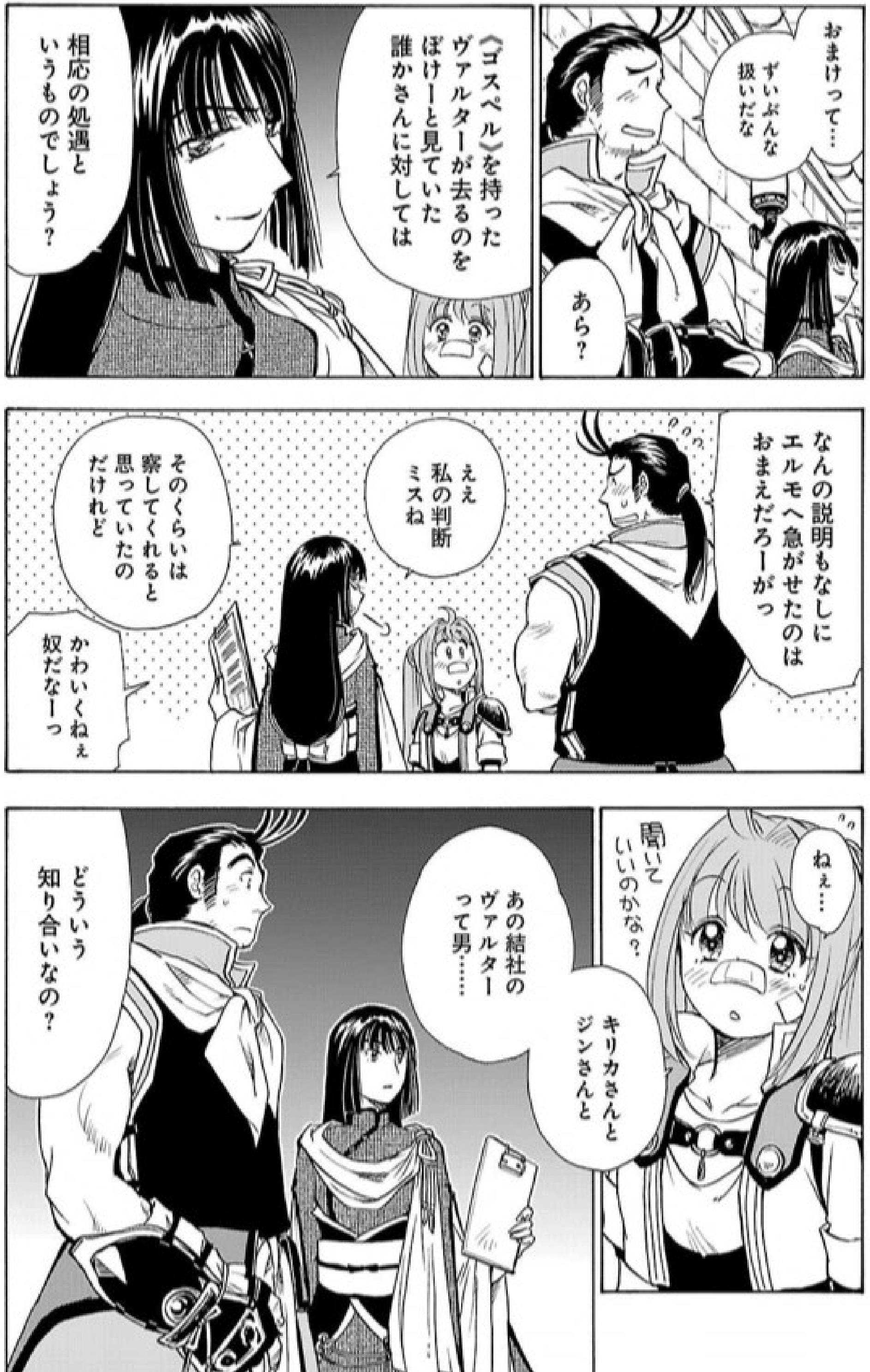
まずはお疲れさま
難しい案件をほぼ終息へと導いた手腕を評価しておくわ
また結社の人間に遭遇しながらも民間人を無傷で守り抜いたこと
遊撃士協会として誇りに思います
でも…あんまり無茶はしないようにね
はーい
念のためジンにツァイス地方をざっと調べてもらったのだけど
あれから揺れを感じた地域はないみたい
地震の調査に関してはこれで終了としてよさそうね

残るは大本の《結社》と
彼らが扱う《ゴスペル》だけど…
《ゴスペル》の解析は引き続きわしに任せておくといい！
中央工房も最優先で協力させてもらいますよ
無論結社は俺らが追う！
ツァイスが片づいたなら別の場所に移ってもいいかもね
ならちょうどいいわ
たった今王都支部から応援要請が入ったの
あなたたち結社の調査班に正式な依頼があるそうよ

まさか王都に結社が現れたの!?
ガタッ
いいえそういう話は聞いていない
ちなみに依頼内容さえ教えてもらっていないわ
え？
あれ〜？
つまり
どーいうこと？
それだけ重要な案件だということよ
外部に絶対漏れてはいけないほどの……ね
…とにかく王都へ行ってみるしかなさそうだな
ん？
こりゃ！アガット！
武器も持たずにツァイスを離れるつもりなのか!?

あー……
その辺の店でてきとーに…
馬っ鹿もん!!
せっかくこのわし自ら改造してやると言うとるのに!!
うきー!!
本人がいなくなったら完璧な調整ができんじゃろが!!
でもな俺は…
わかっとるわい!!
おまえさんがひとりでも多くの人間を守るためにその重剣を振るっとることは!
だからこそ…己の力を最大限に活かせる相棒を与えてやりたいんじゃ
少しだけ わしに時間をくれんかの
だ…だけど…
こいつだけじゃ不安だろが…
おっ!
だったら
わたしが代わりじゃだめですか!?

はあ!?
えとえと
結社の人たちは高度な導力器(オーブメント)技術を持っていて…
そんな時は
お役に立てると思いますっ!!
これからも《ゴスペル》とか変な装置とか
いっぱい使われることあると思うんですっ
きゃー!
ありがとティータ
おねーちゃん
馬鹿野郎!!
余計に不安が増えるだけじゃねえかっ!!
フフ
まるで娘を持つおとーさんのようだねぇ
誰がだ!!
そんなにふたりが心配なら
おまけついでに
この男も連れていくといいわ


おまけって…
ずいぶんな扱いだな
あら？
《ゴスペル》を持ったヴァルターが去るのをぼけーと見ていた誰かさんに対しては
相応の処遇というものでしょう？
なんの説明もなしにエルモへ急がせたのはおまえだろーがっ
ええ 私の判断ミスね
そのくらいは察してくれると思っていたのだけれど
かわいくねぇ奴だなーっ
ねぇ…
聞いていいのかな？
キリカさんとジンさんと
あの結社のヴァルターって男……
どういう知り合いなの？

そうだな…
なんて説明すればいいのか…
端的に言うと武術の同門の弟子同士ね
私たちはかつて共和国にある道場《泰斗流》の門下だった
ヴァルターは6年前道場を出奔して
それからずっと行方知れず…
今の彼についてはあなたたちから聞いたこと以外私も知らないわ
キリカ
さて
いつまでもぐだぐだ言い合ってても仕方ないわね

アガット
お…おう
その間は引き続きツァイス支部を手伝ってちょうだい
博士の申し出を反故にする理由はないわ
いや俺は
修理が終わるまでここに残りなさい
あなたなら剣に頼らずとも人を守り支える遊撃士の仕事はできるはずよ
エステルたちは王都グランセルへ
とにかくまずは応援要請の内容を確かめてきなさい
それと…

おそらく…《結社》による新たな「実験」は水面下で進められているはず
くれぐれも気をつけて
はい!!
女神の加護を!

ザ
ザ
ザ
ザ

あれは…
旧王国軍情報部特務兵の残党たち
…ですね
ええ
特務兵は《身喰らう蛇》のロランス少尉が直々に率いてた特務部隊の兵士
おそらくまだなんらかの形で結社とつながっているはずよ
ようやく尻尾をつかんだわ！
いくわよアネラス！彼らのアジトを押さえましょう！
ラジャーです シェラ先輩！

おかしいわね…
形跡はあるのに…
人の気配が…まったく感じられない…
さっきの兵士たちはどこに行っちゃったのかな…？

散って!!

特務兵!?
いつの間に
こんな近くに…
なんて気配の
消し方なの!?

相手は
3人!
いけるわね!?
はいっ!!

ドドドド
なかなかしぶとい…
ドドドド
ダァーン!
はーっ!!
よしっ
これで終わりだねっ
うそぉ!
今度こそ完璧に入ったと思ったのに…
気をつけてアネラス
こいつら…なんだか普通じゃないわ
とにかくひとりずつ慎重に…
確実に沈めるわよ!

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
な…なんとか…
倒せたみたいだけど…
なんなの？こいつら…
まるで…人とやり合った気がしない…
ぱち
ぱち

ぱち
ぱち
あはは
ぱち
ぱち
スゴイスゴイ
戦闘能力を的確に封じ
だけど決して命までは奪わない
お姉さんたちなかなか優秀な遊撃士だねぇ
へ？
えっと…君は…？
あなた
もしかして

はじめまして
僕は執行者No.0《道化師》カンパネルラ
結社《身喰らう蛇》に連なる者さ
え…
とうとう現れたわね
情報部の残党たちとつるんで
一体何を企んでいるのかしら？

うふふ
僕は何も？
今回の僕はあくまで「見届け役」だからね
具体的な計画を尋ねられたって…
僕困っちゃうなぁ
ね…ねぇ…
君…
ほんとに結社の人間…なの？
えっと…
君みたいなちっちゃな子が闇の組織とか…
そーいうのやめちゃった方がいいと思うよ…？
うふふ優しいなぁ
道化師の僕を心配してくれているんだね

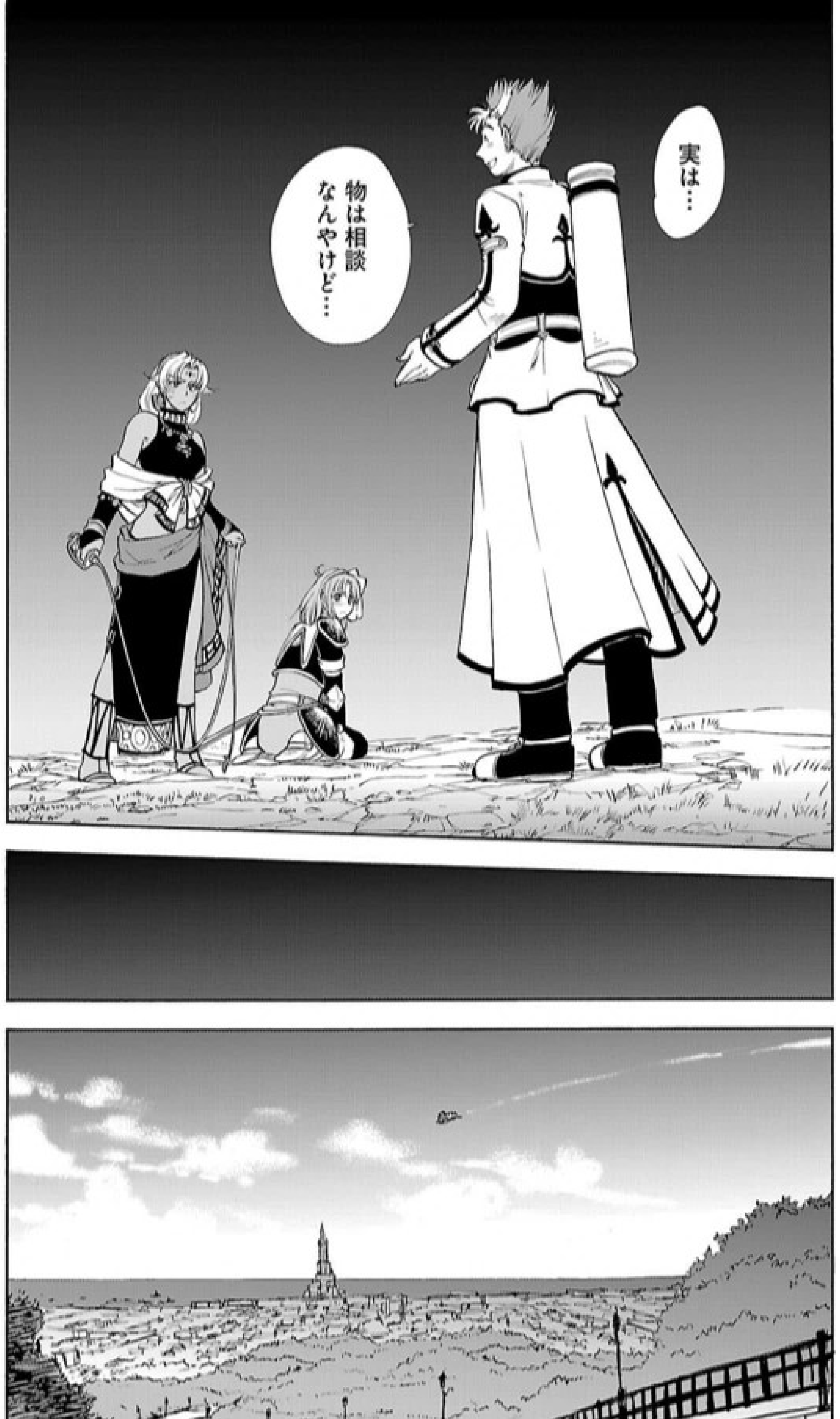
…なんて優しくて
失礼なお姉さん
すっ
他人を気遣ったりする前に
自分の身を案じた方がいいんじゃない?
うそっ!?
そんな…!!
完全に戦闘不能にしたはずよ!?
うふふ
だから君たちは甘いんだよ
く…!
やるんだったら
徹底的に
破壊するつもりじゃないと

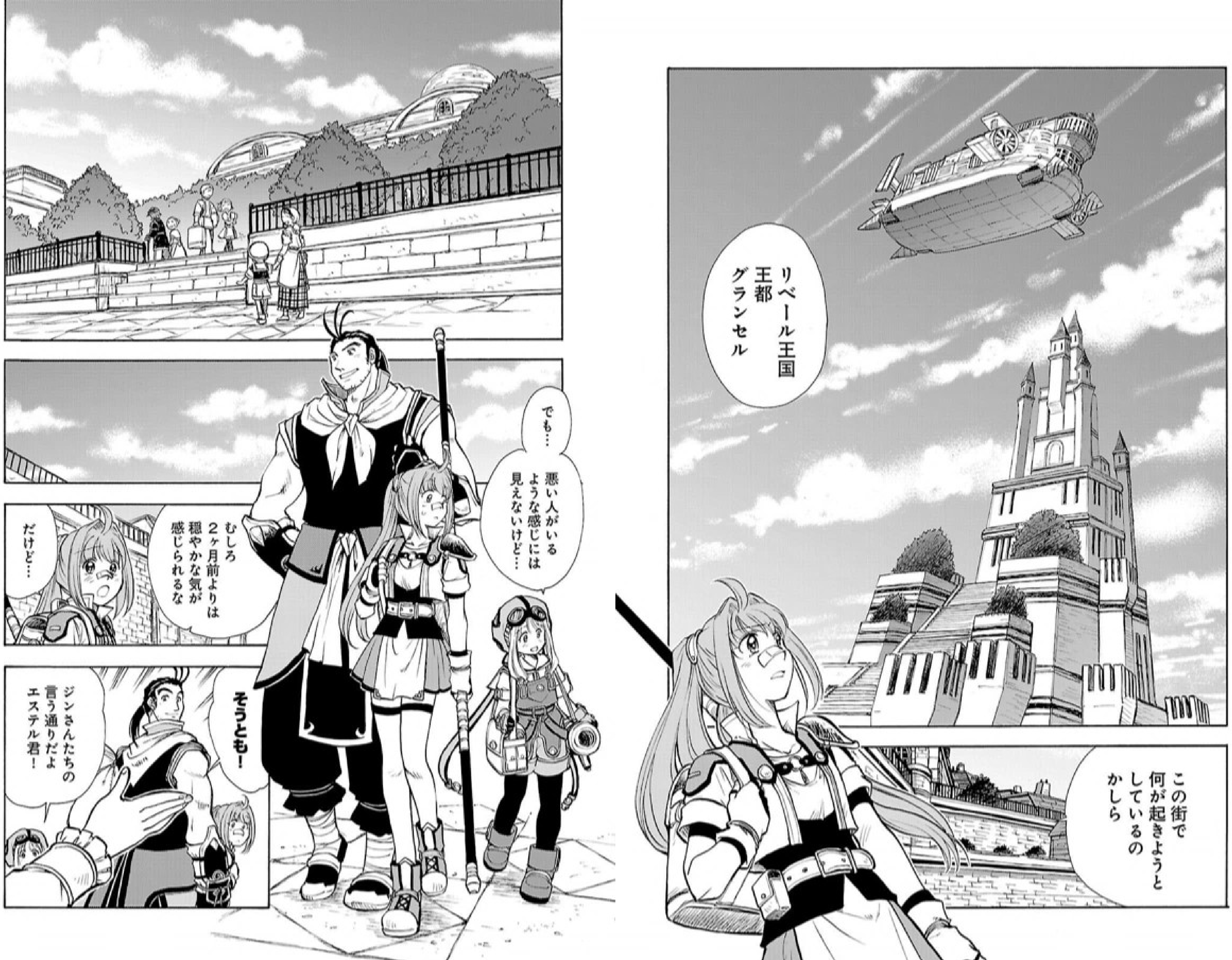
な…!!
こんな風に
あはは
驚いた?
よくできた
ビックリ箱
だろう!?

なんてことを!!
うふふ
これにて今宵のショウはおしまいさ
カンパネルラ!!
そうそう
もうすぐどこかで「お茶会」が開かれるらしいよ
準備も着々と進んでるみたいだし
参加するなら急いだ方がいいかもね

待ちなさい!!
それでは皆様
ごきげんよう
……
…ひどい…
こんなのって…

アネ…
いやー
かわいい顔して
えげつないこと
する子やねぇ…
ふたりとも…
大丈夫やった？
ケガとかは
してへんか？
あなたは…
あの時の…
!!
そう！
そう！
七耀教会の巡回神父
ケビン・グラハムです
よかったわぁ
覚えてて
くれとって！
えっと…
アネラス・
エルフィードさんに
シェラザード・
ハーヴェイさん
…やね？


実は…
物は相談
なんやけど…


リベール王国
王都
グランセル
この街で
何が起きようと
しているの
かしら
でも…
悪い人がいる
ような感じには
見えないけど…
むしろ
2ヶ月前よりは
穏やかな気が
感じられるな
だけど…
そうとも！
ジンさんたちの
言う通りだよ
エステル君！

思い出してもくれたまえ
武術大会で優勝したにも関わらずご褒美の晩餐会にひとりだけ出席させてもらえない…
そんな悲劇が当然のようにまかり通っていたあの頃に比ぶれば
今のこの王都の様子はなんと平和なことか！
…というわけでジンさん！
あの夜の分までぐいーっと一杯いこうじゃないか！
いいねぇ！
王都の居酒屋は酒も肴もなかなか
こおら!!
ふたりとも王都に何しに来たのかわかってるの!?
だけどそろそろランチの時間だよ？
腹が減っては戦ができんというしな
…とはいえお腹が膨れても戦いなんてのはまっぴらごめんだけどねっ
違いない！
悪い奴らには敢然と立ち向かってくれないと困るんですけど!!
もーっ

ふふっ
あのねティータ
あれはあんまり見習っちゃいけない部類の大人たちよ？
ひどいっ
なんだかいいなぁ…
そうじゃなくって…
…その…
昔…
エレボニア帝国はリベール王国と戦争をしたこともあったし…
カルバード共和国ともあんまり仲良しなわけじゃないって聞いてたんだけど…
帝国のオリビエさんと
共和国のジンさんと
王国のお姉ちゃんを見てたらね…
そーいうの
嘘みたいだなって♡

すばらしいよティータ君！
それこそまさにラブ&ピース♡
きゃー♡
まあ…勝手知ったる相手とひどいケンカをしたいとは思わんよなぁ
逆に言えば…
国家という間では相手を知ることすら
困難極まりないということか…
あら？エステルさん!?
クローゼ！
やっぱり！
王都にいらして…
…って!!
あ
どうしたんですその鼻…!?

へーき！へーき！
たいしたことないのよこんなの仲！
えええっ!!
クローゼこそどうしたの？
もしかして…あたしたちを出迎えに来てくれたとか!?
え…
ええ…
あー
…と言いたいところなんですが
すみません
本当は空港に個人的な目的があって…
あ！
ほら
ちょうどいいタイミングで…
あれ？
あれは…！

ティータ坊じゃねぇか?
整備長さん!
ツァイス中央工房のグスタフ整備長さんよ!
何かの導力器を納品しに来たのかな?
そ…それじゃあ…
これが…
あの…!?
そうとも!
これが「XG-02」!!
アルセイユ用新型エンジンのサンプルだ!!
きゃあああ♡
アルセイユのエンジン?
アルセイユ…
確か王国が開発した世界最高峰の高速巡洋艦…だったか?
実はかねてから中央工房はアルセイユに搭載する新しい導力機関を研究開発していたんですが…
きゃーっ!!
その新型エンジンが完成したんですって!!

見てください!! このXG-02の機能的かつかわいらしいデザインを!!
ああん
こんなコンパクトなのにあの出力が実現できるなんて…!!
整備長さんはそのエンジンをアルセイユに取りつけに来たのね
しかし…発着場にあの白い船は泊まってなかったようだが…
アルセイユは今レイストン要塞に行ってるんです
新型エンジンへの換装工事はあちらでおこなうとのことでしたので…
ツァイスでの組み込み作業が無事に終わったんでな
その足で王都へ調印式用の贈答分を届けに来たってわけだ
そうでしたか…
本当にお疲れさまでした

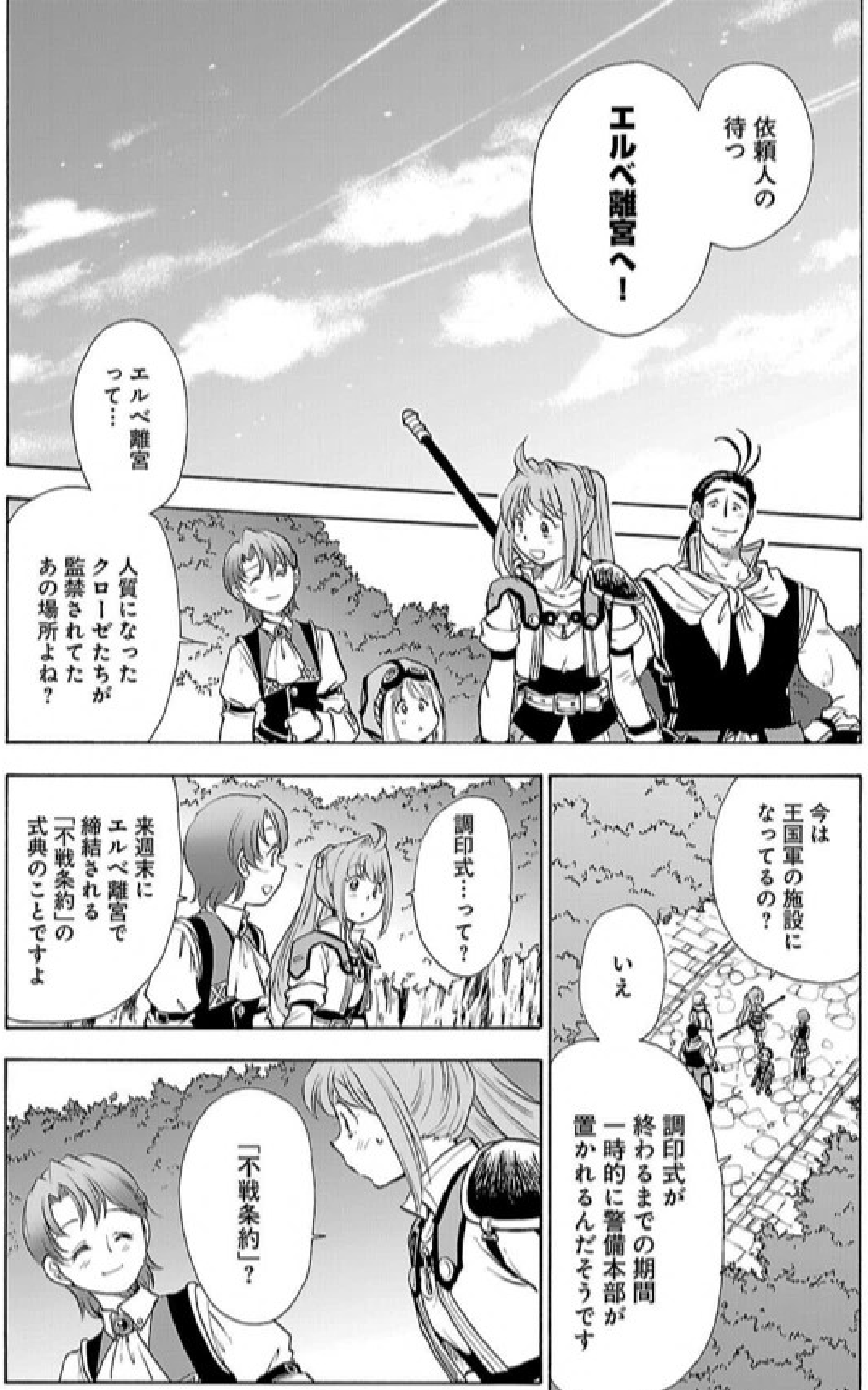
いつもありがとうございます
はは… こっちこそありがとよ!
そんな風に言ってもらえたら疲れもふっ飛んじまうぜ!
お嬢さん…どこの子だい?
ずいぶんとアルセイユに詳しいようだが
あ…
…申し遅れました
クローディア・フォン・アウスレーゼと申します…
へ?
その…アルセイユは一応王家の所有物ですから…
陛下に代わってお礼を言わせていただこうと思って…

アウスレーゼってまさか…
うん 女王様のお孫さん♡
ひっ
姫様!?
こ…こりゃ…
どうもご丁寧に…
なんだか…
…余計な気遣いをさせてしまったでしょうか
まぁ…
学生服着た普通の女の子がいきなりお姫様に変身したら
ビックリするのも仕方ないんじゃない？
それはともかく…
よかったらクローゼも一緒に来ない？
結社の調査班に何か依頼があったらしいの
ほらーっ そこの3人も！
とっとと遊撃士協会に行くわよーっ!!
はーあ

よく来てくれました
ルーアンとツァイスでは本当にご苦労さまでしたね
でも…正直 あんまり成果が出てるわけじゃ…
《結社》が現実に動いていることがわかっただけでも大きな収穫なんです
推測が確信に変化したことで
私たちは新たな協力関係を結ぶことができそうなんですから
いいえ
そんなことはありませんよ
実はね
あなた方にお願いする応援要請なのですが

今回依頼をしてきたのは
あの
リベール王国軍なんです
軍が…!?
一体何があったの!?
具体的な内容に関しては軍の担当者が直接説明に来てくれるそうです
…が
約束の時間までまだだいぶありますね…
あの軍が遊撃士(あたしたち)にって…
よっぽどのことじゃない…!
そんなにのんびりしてて大丈夫なの!?

でしたら…
こちらから伺いに行ってみますか?
そんなことしていいの!?
むしろそうするべきかもしれませんね
今の王国軍はおそらく持ち場を離れる余裕などないでしょうし…
こちらとしても実際に現場で見聞きすることで
現在の状況をより把握しやすいかと思います
では先方に連絡を入れますね
あなた方も早速向かってみてください!


依頼人の待つ
エルベ離宮へ！
エルベ離宮って…
人質になったクローゼたちが監禁されてたあの場所よね？
今は王国軍の施設になってるの？
いえ
調印式が終わるまでの期間一時的に警備本部が置かれるんだそうです
調印式…って？
来週末にエルベ離宮で締結される「不戦条約」の式典のことですよ
「不戦条約」？

女王陛下が提唱されたリベール・エレボニア・カルバードの3カ国で締結される条約なんです
国家間の対立に武力を行使することなく
話し合いで解決すると謳っています
それって…戦争がなくなるってこと⁉
いえ…
条約に強制力はありませんから…
そう簡単にはいかないかもしれませんが…
だとしてもすごいことなんじゃない⁉
あの帝国に戦争はしないって約束させるわけでしょう⁉

この条約に関しては帝国も断る理由などないだろう
なんといっても王国からのお土産があまりに魅力的すぎる
お土産？
実は調印式の際に王国から友好の証として
帝国 共和国の双方に先程の新型エンジンが提供されることになっているんです
つまり
口先だけの平和を唱えれば
世界最強の軍艦を造ることもできるというわけさ
それでも…
これを足掛かりに対話を続け互いの信頼関係を築いていければ…と
お祖母様は考えていらっしゃいます
さすがはアリシア陛下だな
みんなが仲良くなれるといーですね！
…あ
見えてきましたよ
ここがエルベ離宮です
きれいなところ…！
ここで依頼主の軍人さんが待ってるのね！
…って
なんか普通の人がいるんですけど
離宮は普段は市民の方々にも開放している場所なんです
確かに家族連れも多いみたいね

お姉ちゃん お姉ちゃん
見て見て
かわいい子…
お人形さんみたい…♡
絵に描いたような幸せな家族という感じだなぁ
パパ ママ
行こっ

いいなぁ…
素敵な家族だなぁ…
ああいう人々の笑顔を二度と曇らせんためにも
俺らは精々頑張らんといかんな！
その言葉 我々も胸に刻んでおかねばならないな
あれ!?
シード中佐!?
中佐も王都に来てたの!?
ああ
つい先程レイストン要塞から到着したばかりだがね

協会から連絡を受けている
早速だが
詳しい話をさせてくれ！
まずこの話は王国軍からの正式な依頼と考えてもらいたい
その上で君たちにはある件の調査と情報収集をお願いしたいんだ
ある件の調査？
「不戦条約」は知っているだろうか？

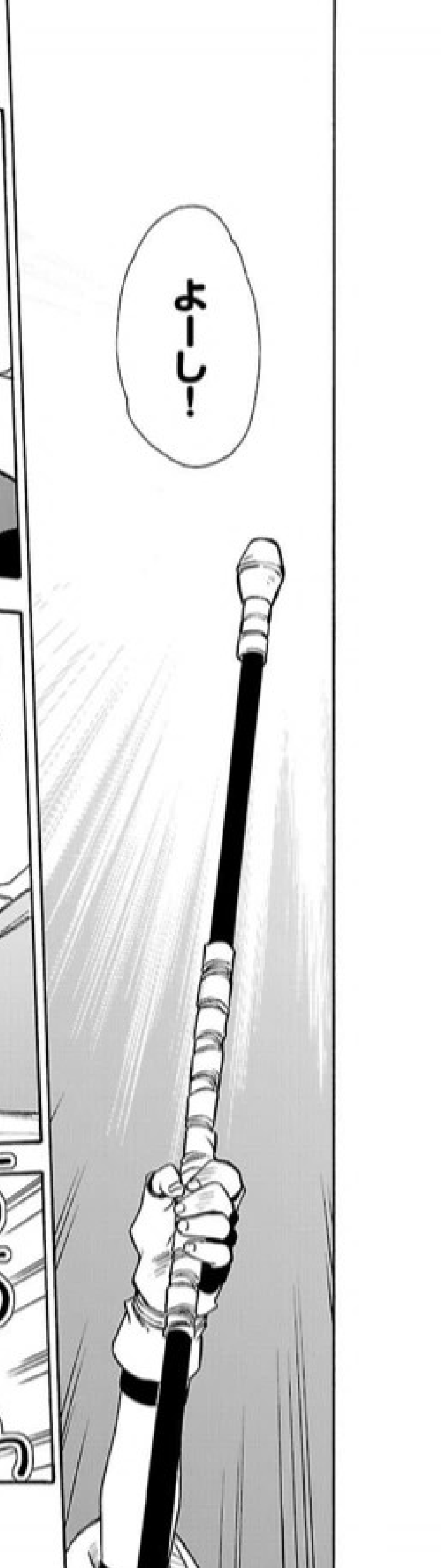
リベール王国
エレボニア帝国
カルバード共和国の
3カ国間で結ばれる
相互不可侵条約
来週末その調印式がここエルベ離宮でとり行われる
実はその条約締結を妨害しようとする脅迫状が
我がレイストン要塞の王国軍司令部に届けられたんだ
脅迫状!?
一体どんな内容なんですか？

こちらをご覧ください
「不戦条約」に与する者よ
直ちにこの欺瞞に満ちた取り決めから手を引くがよい
手を引かぬ者には大いなる災いが降りかかるだろう
差出人は…わからないのですね
これだけなら単なる悪戯にも見えなくもないが…
だが同じ文面の脅迫状は王国の各方面…
全部で9カ所に送りつけられている
そ…そんなに!?

しかも「不戦条約」に直結するグランセル城や両大使館はもとより
関係者以外には関わっていることさえわからないような機関にも
まるですべてを見透かしたようにピンポイントで届けられているんだ
国際条約である以上
妨害しようとする容疑者は色々と考えられるだろうね
どうして…誰がそんないじわるなことするのかなぁ…
情けないことだが共和国か…帝国の主戦派
もしくは3国の協力を歓迎しない全く別の国家の仕業か…

もちろん…王国にも容疑者は存在すると思います…
それに
《結社》という最悪の可能性もありえるわね…！
君たちにお願いしたいのは他でもない
脅迫状が届けられた各所で聞き込み調査をして欲しいんだ
無論王国軍も条約調印式までの間王都周辺の警備に万全を期す所存だが
そのためにもなるべく多くの情報が必要なんだ
どうか…引き受けてはもらえないか？

そんなの…
確認するまでもないでしょ!?
みんなが仲良くなれるこのチャンスを
悪い奴らに邪魔なんかさせてたまるもんですか！
ありがとう！シード中佐！
あたしたちも協力させてください!!


よーし!

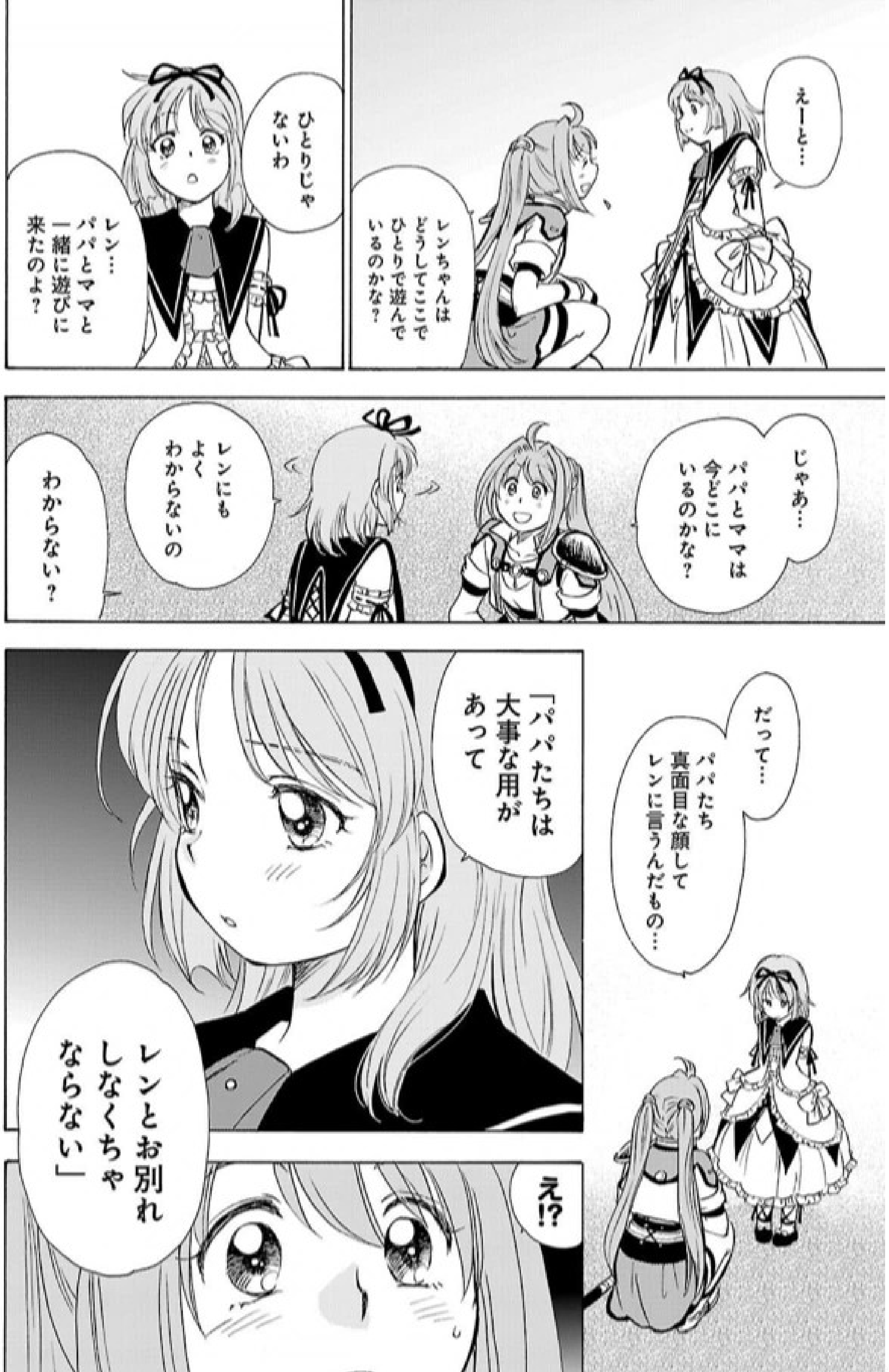
とにかく王都に戻って脅迫状の話を聞いてみましょ!
できればコソコソ隠れてる犯人も見つけて
この手で捕まえてやるんだから!!
おー!
ああっ
どこに隠れちゃったのかなぁ〜
おおう

はぁ〜
エルペ離宮の執事さん…?
どーしたのかな?
あのー…
なんだか困ってるみたいだけど…?
実は…
観光客らしい迷子の子供を預かっていたんだけど…
迷子?
その子が突然…
かくれんぼしましょ♡
えー
…って言って姿を消してしまったんだ

休憩室をくまなく捜してみたんだけど全然見つからなくて
こうして部屋の外を調べてるんだけど…
まさか…離宮の外へ出ちゃったりはしてないよね…
それは…心配ですね
ボクたちも迷子の子猫捜しを手伝った方がよさそうかな？
助かるよ！
白いフリフリのドレスを着て
黒いリボンを頭につけた10歳くらいの女の子だ！
よし！離宮内を手分けして捜してみるか！
その必要はないわ！
どんっ！
え？

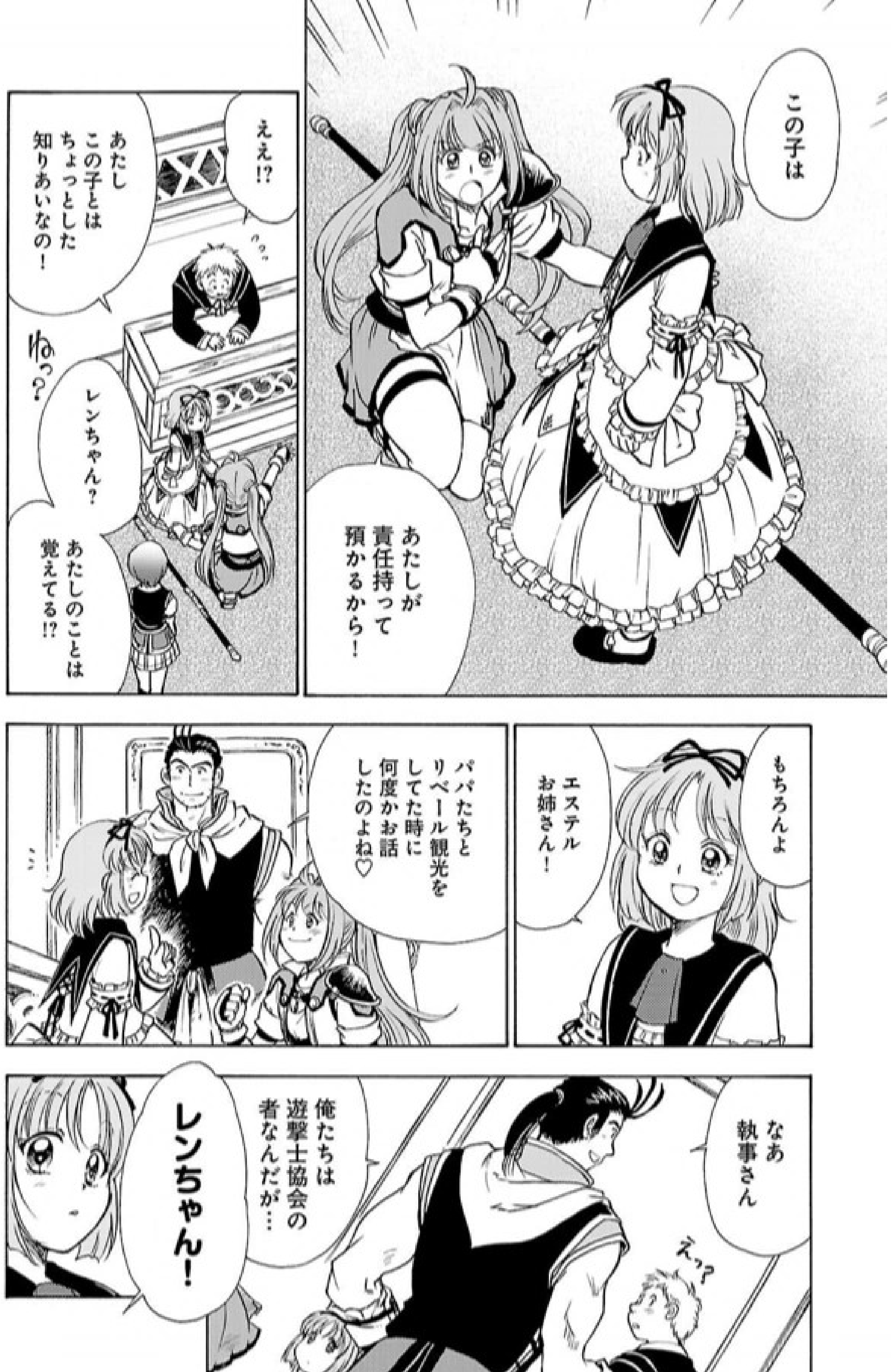
子供の遊びとあなどってもらっちゃあ困るわね
かくれんぼには越えてはならない鉄壁のルールがあるのをご存知？
女の子のかくれんぼが休憩室でおこなわれているのなら
絶対
その子は休憩室の中にいるはずよ！
でもここはさんざん捜した後で
これ以上はもう…
ひーん
降参？
そ
そーいう時はこう言うの♡
じゃあ…素直に降参すれば？
おーに泣いてまーけたっ
かーくれんぼおーわりっ！

みゃおん♪
あーっ
くすくす
レンの勝ちね！
さっきの女の子♡
やっぱりレンちゃんだったか
うふふ
レンのこと覚えててくれて嬉しいわ！


えーと…
レンちゃんはどうしてここでひとりで遊んでいるのかな？
ひとりじゃないわ
レン…パパとママと一緒に遊びに来たのよ？
じゃあ…パパとママは今どこにいるのかな？
レンにもよくわからないの
わからない？
だって…
パパたち真面目な顔してレンに言うんだもの…
「パパたちは大事な用があって
レンとお別れしなくちゃならない」
え!?

お…
お別れ…？
…でも…
「用がすんだら必ず迎えに行くから
それまでいい子で待っていられるかい？」
…って…
そ…それって…
だから…レンは…
もちろん
できるわって答えたわ！
そしたらパパとママは
そのままどこかに行っちゃったの
だってレンもう11歳だもの！

おいおい…冗談だろ…?
これは…ちょっと笑えないな…
まさかそんな事情だったなんて…
どうしよう…
これって…迷子を預かってるとか言ってる場合じゃないよね…
執事さん!!
ばっ
心配しないで!!

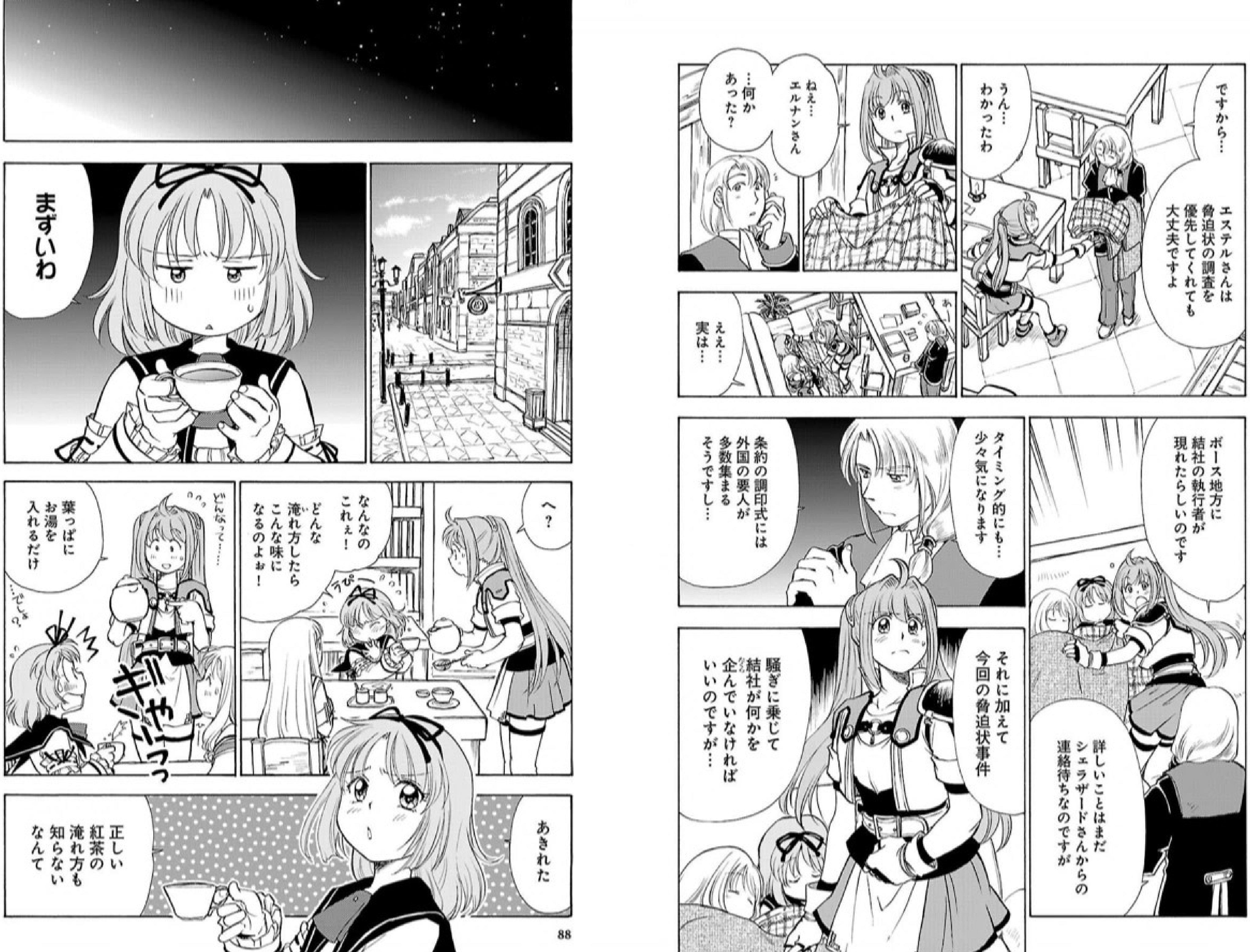

この子は
あたしが責任持って預かるから!
ええ!?
あたしこの子とはちょっとした知りあいなの!
ねっ?
レンちゃん?
あたしのことは覚えてる!?
もちろんよ
エステルお姉さん!
パパたちとリベール観光をしてた時に何度かお話したのよね♡
なあ執事さん
俺たちは遊撃士協会の者なんだが…
えっ?
レンちゃん!

大丈夫よ！
パパとママにはきっとすぐ会えるからね！
だけど…
それまでひとりでかくれんぼしてるのもつまんないでしょ？
だからレンちゃん
お姉さんたちと一緒に遊撃士協会に行かない!?
でも…
パパたちは…
あたしが見つけてあげる！

レンちゃん！
一緒にいこう！

…そ…
それじゃあ…
レン
お姉さんと一緒にいくわ！

おやおや…こんなところで…
かわいそうに…よっぽど疲れてしまったんですね
それでエルナンさんレンちゃんのご両親は…
ハロルド・ヘイワース氏とソフィア・ヘイワースさん…ですね
ざっと調べてみただけですが…
クロスベル自治州？
それらしいご夫婦がクロスベル自治州で貿易商を営んでいるようです
まだ確定したわけではありませんがね
…とにかくレンさんの件は明日私から各地の協会に連絡しておきましょう


ですから…
エステルさんは脅迫状の調査を優先してくれても大丈夫ですよ
うん…わかったわ
ねぇ…エルナンさん
…何かあった？
あー
ええ…実は…
ボース地方に結社の執行者が現れたらしいのです
詳しいことはまだシェラザードさんからの連絡待ちなのですが
タイミング的にも…少々気になります
条約の調印式には外国の要人が多数集まるそうですし…
それに加えて今回の脅迫状事件
騒ぎに乗じて結社が何かを企んでいなければいいのですが…
まずいわ
へ？
なんなのこれぇ！どんな淹れ方したらこんな味になるのよぉ！
どんなって……
葉っぱにお湯を入れるだけ
あきれた
正しい紅茶の淹れ方も知らないなんて

レンよりも年上なのに…ダメなお姉さんね
えー
あっあの…レンちゃんは紅茶の淹れ方を知ってるの?
あわわ…
当然よ
レンは立派なレディーだもの
そうなんだ♡レンちゃんのお茶飲んでみたいなぁ!
なんなら淹れてあげてもいいわよ
ほんとに!?
ええよろこんで♡
でもどうせなら新しい茶葉とお菓子なんかも欲しいところよね
あらっ
皆さんお早いですね
おっ
朝からお茶会とは余裕だな?
みんなが来るのを待ってたのよ
あたしたち昨日は協会に泊まったから

みんなの方はどうだった?
何か話は聞けた?
すみません
お祖母様…アリシア女王陛下は公務が忙しくて昨晩はお会いすることができなかったんです
ですが今日は午後から時間があるとのことで面会の約束をしていただいてきました
そっか!
ありがとねクローゼ!
ならそれまでに大使館あたりの聞き込みをすませておこうや
帝国大使館への取り次ぎならボクに任せてくれたまえ!
うん!
エステルお姉さん…どこかへ出かけるの?

ごめんね やらなきゃいけない仕事があって…
今日は協会でお留守番しててくれるかな？
あ…あの…
レンちゃん！
今日はわたしと一緒に遊ばない!?
わたし…レンちゃんともっとお話ししてみたいし！
えと えと
さっき言ってた紅茶やお菓子を一緒に買いに行ってみようよ！
ねっ
別にいいけど…
ほんと!?
きゃー♡
ありがとう！レンちゃん！
ごめんねティータ レンちゃん 夕方には戻るから！
いってらっしゃーい
またね♪

よーし！
早速脅迫状の聞き込みを始めましょ！
でもよかったですね ジンさんとオリビエさんがいてくださって
え？
だって…行き先は大使館なんですよね？
大使館というのは外国に滞在する派遣元の国民のために存在する施設で…
リベール王国にあってもリベールの人間は無闇に立ち入ることができない
特殊な場所ですから
そうなんだ…
なんか…
国って色々と大変なのね…

でも…そんなにややこしいならジンさんとオリビエで話を聞いておいてくれればよかったのに
ふたりとも昨日の夜はそれぞれの大使館に泊まったんでしょ？
エルナンも言っていただろう？
自らで見聞きする方が現状を深く把握することができるのだと
他国の人間の考えを直接聞き出せるいい機会…
だよ？
そっか…あたしたちのために…
ありがとうジンさん！オリビエ！
三ケ国の愛と平和を守りたいだけさ！
さあ！いざ！共和国大使館へ！

カルバード大使館へようこそ
私が共和国大使のエルザ・コクランよ
脅迫状なんて珍しくもないし
共和国はさして気にも留めてなかったんだけどね…
私に何を聞きたいの？
えっと…
エルザ大使はその脅迫状に心当たりはありませんか？
その…
共和国に条約締結の反対勢力が存在するとか…
あら
もちろんいるわよ
え!?
たとえば…
私
とかね

ええ!?
正直まっぴらごめんだわよ あんな…
性根の腐った帝国貴族が治める侵略国家エレボニアと仲良くしましょう♡
…だなんて!
ひ
大使さん…
でもジンさん
私と同じ考えの共和国民も少なくはないでしょ?
あーも…
まー そーですがね
…ただね
今回の不戦条約はいわゆる共同宣言のようなもので
その気になればいつでも破れる口約束に過ぎないの
そんな程度の話をわざわざ事を荒立てて阻止しようとするお馬鹿さんなんか
共和国(うち)にはいないと思うわよ
そう…
ですか…
あの…エルザ大使

共和国の関係者が脅迫犯でないとするなら
誰が怪しいと思われますか?
もちろん個人的には帝国の連中だと言いたいところなんだけど…
おそらくその可能性も低いでしょうね
どうしてそう思うか…わかる?
え?
あ――……
えーと……
高速巡洋艦アルセイユの新型エンジン
…ですか?
その通りよ
条約を締結させればリベール王国が誇る次世代の飛行船舶技術が手に入るのだもの
いくら主戦派でもこんなチャンスに水を差したくはないでしょう?

では…大使は カルバードや エレボニアには 不戦条約を妨害する 理由はないとの 見解ですか？
そういう ことね
珍しいのよ ここまで隙のない 国際条約というのも
ただでさえめんどくさい 共和国と帝国の双方を こんな平和的なやり方で まんまと手玉に取って しまうなんて…
くやしいけど… 本当たいしたお方だわ
リベール王国の アリシア 女王陛下は
…あまり役に 立てなくて ごめんなさいね
こんな感じで いいかしら？
あ！
もうひとつだけ …いいですか!?
実は あたし…
迷子の女の子の ご両親を捜して いるんですけど…

では次は我が エレボニア大使館に ご案内しよう！
ここには ボクの幼なじみが 勤務しているんだよ
オリビエ!!
おお！ ミュラー！
貴様と いう奴は…
親愛なる 我が友よ!!
元気に して…
すまなかったな エステル君
このお調子者が ずいぶん迷惑を かけたのだろう？

…ったく!! あれほど所在を 連絡しろと 言っただろうが!!
この男はっ
げしげしげし
遠く離れるほど 募る想いに ようやく 気づいたのかい？
これが高度な 恋の駆け引き…
あ…あの… ミュラーさん…
あたしたち ここの大使さんに 聞きたいことが あって…
ようこそ エレボニア 大使館へ
おひさー！
駐リベール大使の ダヴィル・ クライナッハだ
例の脅迫状の 犯人捜しを しておるとの ことだが

あいにく帝国内で 条約に反対する 勢力は存在 しないぞ
そうなん ですか…？
当然だ
この条約締結には 我が国の皇帝陛下も ずいぶん乗り気で いらっしゃるのだぞ
陛下のご意志に 異を唱える 不届き者など いるはずなかろう
でも… ひとりくらい 反対してる 人がいるとか…
それは 帝国では ありえない ことなのだ！
あの… ダヴィル大使…
オズボーン 宰相閣下は…
不戦条約について どのように受け止めて らっしゃるのですか？
なに!?

な…なぜリベールの一学生が
そんな名前を…
オズボーンさん…って？
帝国政府の代表者の一人だよ
《鉄血宰相》オズボーン
現在帝国において皇帝陛下をもしのぐ実質的な指導者とささやかれているこわーい政治家さ
こ…こらっ
帝国全土に導力鉄道を張り巡らせて自分の勢力を広げたり
いくつもの自治州を武力で無理矢理併合したり…
オリビエ君!!
いやーん
自国の宰相をそんな風に…
ならば大使から正しく説明をしてさしあげては？
特に秘匿すべき情報でもありませんし

もちろん
オズボーン宰相も不戦条約締結には極めて好意的だ！
むしろ宰相の方から陛下に進言したと聞いておるしな！
それって…やっぱり新型エンジンがもらえるから？
いや…宰相はエンジンの話が出る前から条約に賛同の意を示されていたそうだ
まぁ…あの方にしては少々意外な気もしないではないが…
おかげで妙な圧力もかからず正直ホッとしているのだよ…
とにかく…皇帝と宰相を敵に回せる輩が帝国にいるとは考えられんのだ
脅迫状の犯人を捜すつもりなら他をあたった方がいいと思うぞ？

ミュラーさんも ありがとうね おかげで 色々話が 聞けたわ
礼には 及ばんさ
迷子の少女の件も含め 何かわかったことが あれば連絡しよう
うん！ お願いします
オリビエ
ん？
今夜は大使館に 泊まるんだろうな？
俺は明日から しばらく王都を 離れる
それまで 一度くらいは 顔を出せ
甘えん坊だなぁ ミュラー君は♡
もちろん いつものように 君とベッドで 甘い夢を
冗談抜かすと すまきにして 窓から ぶら下げるぞ
んもぅっ
ひーっ
急ごう エステル君
日が暮れる前に 城の聞き込みを すまさなくては！

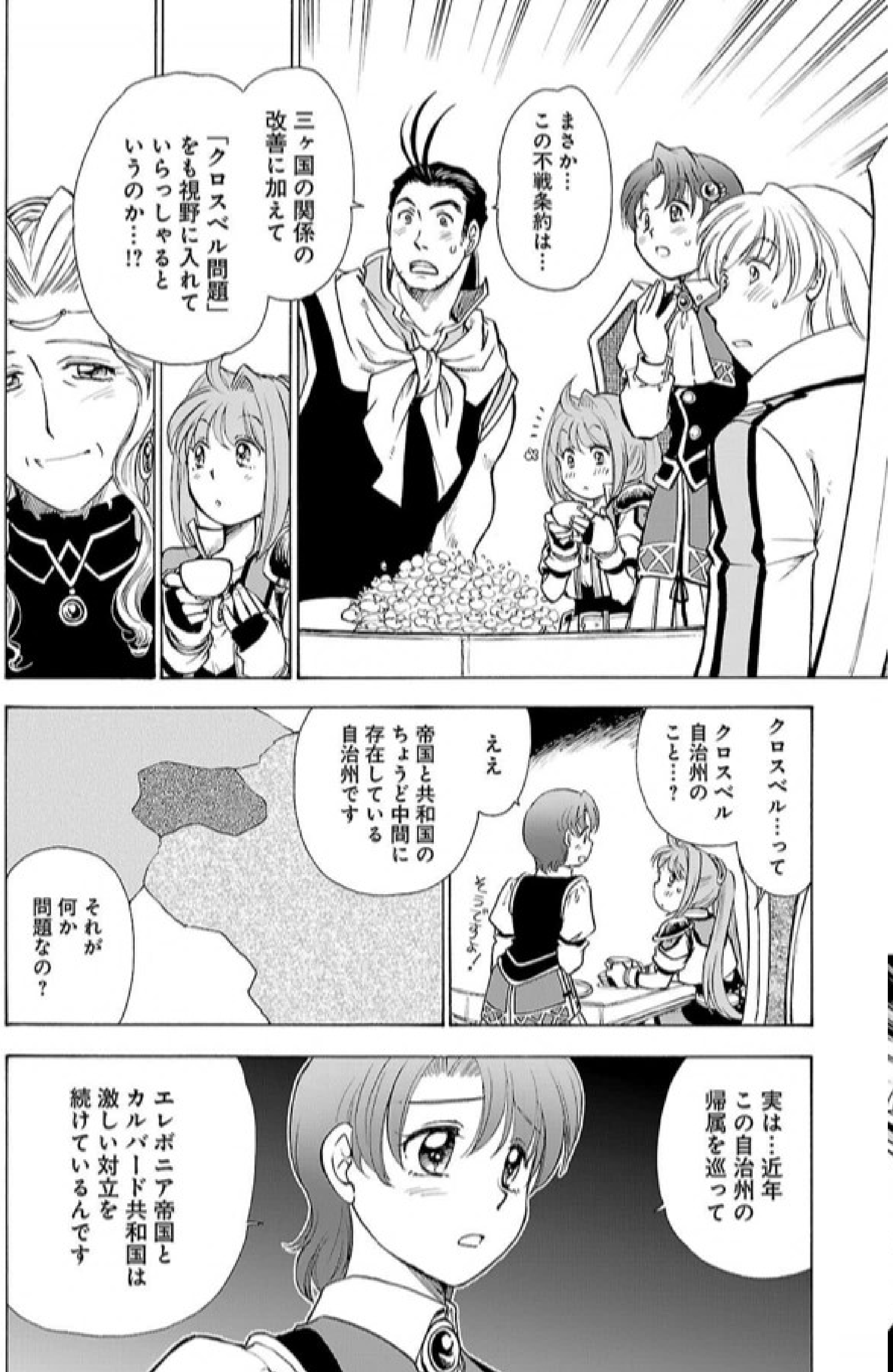
そうですか…
まさか 大使館にまで 脅迫状が…
それで… アリシア女王陛下！
女王様は 脅迫犯に 心当たりは ありませんか!?
そうですね…

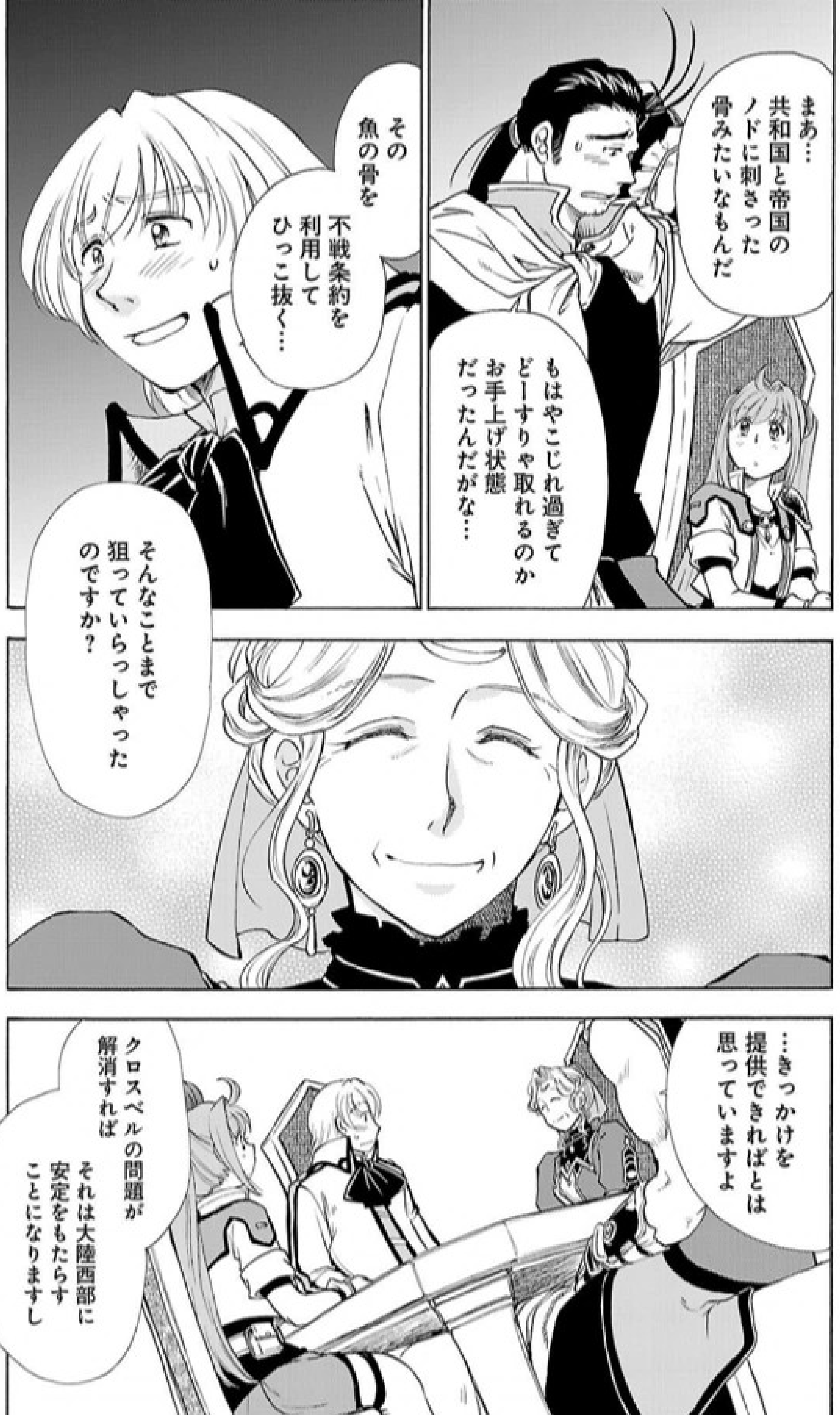
クローディア
あなたは どう 思いますか？
私…ですか？
あなたも日頃から 国内情勢には考えを 巡らせているはずですね
王位継承権を 持つ者として…
意見を 聞かせて ください
は…
はい
現在の…
リベール王国に おいて…
この不戦条約は 国民の皆様に 比較的好感を持って 受け入れられている ように感じます…

ですが…
王国内の極右勢力が 追い詰められている という話を耳にした ことがあります
行き場を失った 彼らの主張が
不戦を謳う 条約に対して 脅迫状という形で 現れた可能性は
あるかも… しれません
え…と…
どういう こと…？
リシャール大佐は 軍事力を強化する ことによって 王国を守ろうと 考えていました

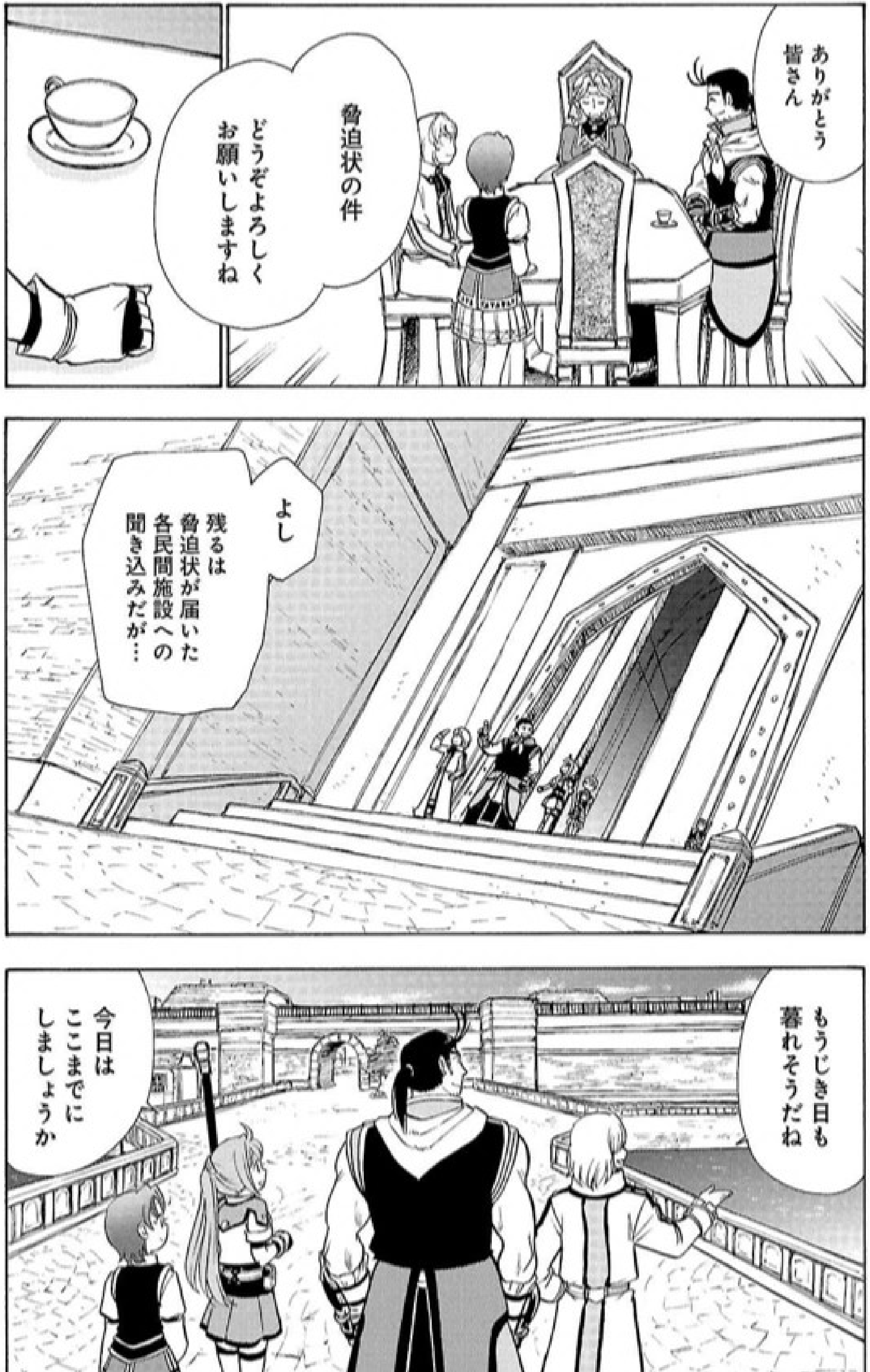
そして大佐は情報部を率いてクーデターを起こした…
それはすなわち彼の掲げる軍拡主義に賛同する人間が王国にも少なからず存在するということなのです
ですが大佐が逮捕されクーデターが失敗に終わった今
そうした主張も完全に封じられた形になっています
言論の自由が認められているこの国で
さぞ不安と不満を募らせていることでしょうね
しかし…それが脅迫状の原因なのだとしたら
もはや駄々っ子の嫌がらせと同じでしょう
陛下がいちいち気に病まれる必要はありませんぜ
うんうん
そーだ！そーだ！
いいえ

軍拡論や大佐の行動も
元々は愛国の精神から来ていることに間違いはないのです
そうしたものをすべて検討しつつ
国の舵取りをしていくこと…
それが
国家元首の担う責任なのですから
アリシア女王
ひとつお聞きしてよろしいか？
陛下はなぜ今この時期に
この度の不戦条約を提唱されたのですか？

失礼ながら…
リベール王国はクーデター事件の混乱も完全に収まり切ってはいない状況だ
今はまだ国外にかまけるよりも国内のみに目を向けられる方が
リベールのためになると思うのですが
おっしゃる通りかもしれませんね…
ですが以前から両国の政府に打診していた不戦条約を遅らせたとあっては国家の威信に関わりますし
エレボニア帝国とカルバード共和国…
それにその周辺の諸国にも
何かしらの影響が出るかもしれませんからね

まさか…この不戦条約は…
三ヶ国の関係の改善に加えて
「クロスベル問題」をも視野に入れていらっしゃるというのか…!?
クロスベル…ってクロスベル自治州のこと…?
ええ
帝国と共和国のちょうど中間に存在している自治州です
それが何か問題なの?
実は…近年この自治州の帰属を巡って
エレボニア帝国とカルバード共和国は激しい対立を続けているんです


まあ…
共和国と帝国のノドに刺さった骨みたいなもんだ
もはやこじれ過ぎてどーすりゃ取れるのかお手上げ状態だったんだがな…
その魚の骨を
不戦条約を利用してひっこ抜く…
そんなことまで狙っていらっしゃったのですか?
…きっかけを提供できればとは思っていますよ
クロスベルの問題が解消すれば
それは大陸西部に安定をもたらすことになりますし

同時に
リベールの発言権を高めることにもつながるはずですしね
はは…
いやはや…
おみそれしました
どうやら10年前のリベール侵攻は想像以上の愚行だったらしい…
これは…なんとしても条約締結を成功させねばなりませんな


ありがとう 皆さん
脅迫状の件 どうぞよろしく お願いしますね
よし
残るは 脅迫状が届いた 各民間施設への 聞き込みだが…
もうじき日も 暮れそうだね
今日は ここまでに しましょうか

…だな ちょうど腹も 減ってきたし
楽しい ディナーの 時間だね！
がし！
おうよ！
いくよ！
楽しく 食事するのは いいんだけど
そのまま 居酒屋で朝まで 飲み明かしたり
お酒のにおい プンプン させながら 協会に来るのは やめてよね？
まあ別に いいんだけどね
お仕事に 支障が 出なければ♡
そ…そうだ！ 今夜は親友の 出立前夜 だったっけ！
いけない いけないっ
お…俺も エルザ大使に 今日の礼をして おかんとな！
ボクたちは ここで おいとま するよ！
また 明日な！

あの…エステルさんはどうされますか?
よろしければ王宮に部屋を用意してもらいますが
ありがとねクローゼ
でも今日はエルナンさんがレンちゃんやティータの分までホテルを予約してくれてるみたいだから
そうですか…
それじゃあまた明日…
よかったらまた…
お手伝いをさせてくださいね
ねぇ…クローゼ
お…おお!?
そなたたちは…!!
お…小父様
あの人って
確か……
…ナントカ公爵閣下!?
デュナン・フォン・アウスレーゼだ!!
びしっ
そうそう!
リシャール大佐と一緒に組んでクーデターを起こそうとした…
あのデュナン公爵よね!?

驚いた…
あんなことしでかしといてよくお城に戻ってこれたわね
黙れ！遊撃士の小娘！
その件で私に課せられていた謹慎処分は今朝正式に解除されたのだ
女王陛下が決めたこと
そなたにとやかく言われる筋合いはない！
ヴ…
もぉ…優し過ぎるわよ女王様は…
自分がどんなにひどいことをされたのかわかってらっしゃるのかしら…？
確かに…
女王陛下を幽閉したことがやり過ぎであったのは
…認めよう

伯母上には…ずいぶんとひどいことをしてしまった…
リシャールに唆されたとはいえ
それだけは…思いとどまるべきであった…
ど…どうしたの公爵さん？
勘違いするな！
私は陛下のことは心から敬愛しておるのだ！
小父様…
でしたらなぜ…
お祖母様から王座を奪おうなどと…
わからぬと申すのか
クローディアよ！

私は そなたが
リベールの次期女王となることに どうしても納得がいかなかったのだ!!
陛下がそなたを高く評価しているのは …知っている!
だが クローディア!
そなた自身には
女王となる覚悟が本当にあるのか!?
王族の自覚があるならば その地位に見合う行動をすべきだろう!
少なくとも私は 王位継承者として 最低限の務めを果たしてきた自負がある!
だが そなたはどうだ!?
いまだ そのような服装(なり)で身分を隠し!
公式行事にはめったに顔も出さず!
学園や孤児院などに入り浸っては うつつを抜かしているそうではないか!
そんな そなたの どこに
上に立つ者の覚悟があるというのか!?

ちょっと公爵さん！
か…閣下
ど…どうなさいました？
デュナン公爵閣下？
遅いぞフィリップ！
女王陛下がお待ちだ！
クローゼ…

お祖母様は…次期国王に私を指名しようとなさっています
デュナン小父様があんな事件に加担してしまった今
そうなるのは必然でしょうし
私も…できればお祖母様の期待に精一杯応えたいとは思っているんです
でも…
そうありたいと思うたびに…

私は…
お祖母様の偉大さや
事を知れば知るほどに…
自分の至らなさを痛感してしまいます
…小父様がおっしゃったのは事実なんです
私はまだなんの覚悟もできていない…
で…でも…
そんなの…できなくて当然じゃない!
国とか女王とか決断するには重大過ぎる話だもの…!

…違うの…
え?
そんな…
だいそれた理由じゃなくて…
私…
私は…
女王になったら
こうして…
友達と気軽に話したり
先生に甘えたり
あの子たちを抱きしめることもできなくなる…
すべてが
全部
変わってしまうんです…
もう二度と「クローゼ」には戻れない

それが
とても
こわくて…
そんな風に
感じてしまう
自分が情けなくて…
私はまだ…
お祖母様にちゃんと
返事ができないんです…
それでも…
いいんじゃ
ないのかな？

そんなに
こわくて
たまらないのに…
それでも
クローゼは一生懸命
答えを出そうって
頑張ってるじゃない
だったら
今は
それでいいよ
そうやって
いっぱい
悩んで
いっぱい
考えて
それで…
いつか
クローゼが
あたしは
こうしたいんだ!!
…ってのを
決めたのなら
女王に
なっても…
ならなくっ
たって！
あたしは
それで
いいと
思う！

エ…エステルさん
でもねクローゼ
これだけは言わせて！
あたしはいつだってクローゼの友達で
いつだってクローゼの力になるわ！
きっとヨシュアもジルやハンスくんやテレサ先生たちだって
みんなあたしと同じよ！
女王になっても…それだけは変わらないんだからねっ!!
わかった!?
…はい！
ありがとう…エステルさん…私いつも助けられてばかりで…
いやいやいや!! それを言うのはこっちの方よっ
まじで!!
私にも…力になれることがあったら
どうぞ…なんでも言ってくださいね
あ…あのじゃあ…
教えてほしいことがあるんだけど…

HOTEL
…でね
すっごく悩んだんだけど
最終的にそれぞれ選んだのが
じゃーん♡
きゃーー♡
かわいーっ!
なんかがっつり楽しんできたのね…
だってグランセルのデパートってすっごく広いんだもん!
ねーー♡
一日中いても全然飽きなかったのよね♡
あーん
いいなーふたりともー

あら?
お姉さんもお買い物に行きたかったの?
で…でもでも…
お姉さんは忙しいんでしょ?
ふえーん
そーなんだけどー ティータたちだけ仲良くなってずるいー
仕方ないわねぇ
明日は一日エステルお姉さんにつき合ってあげようかしら?
ほんとーー?
やたー!
ありがとーレンちゃん! ティータ!
むーーう
よかったねお姉ちゃん
で…でもお姉さん?
レンとも仲良くなりたいのなら
レンのことも…
ずいっ!!
げっ

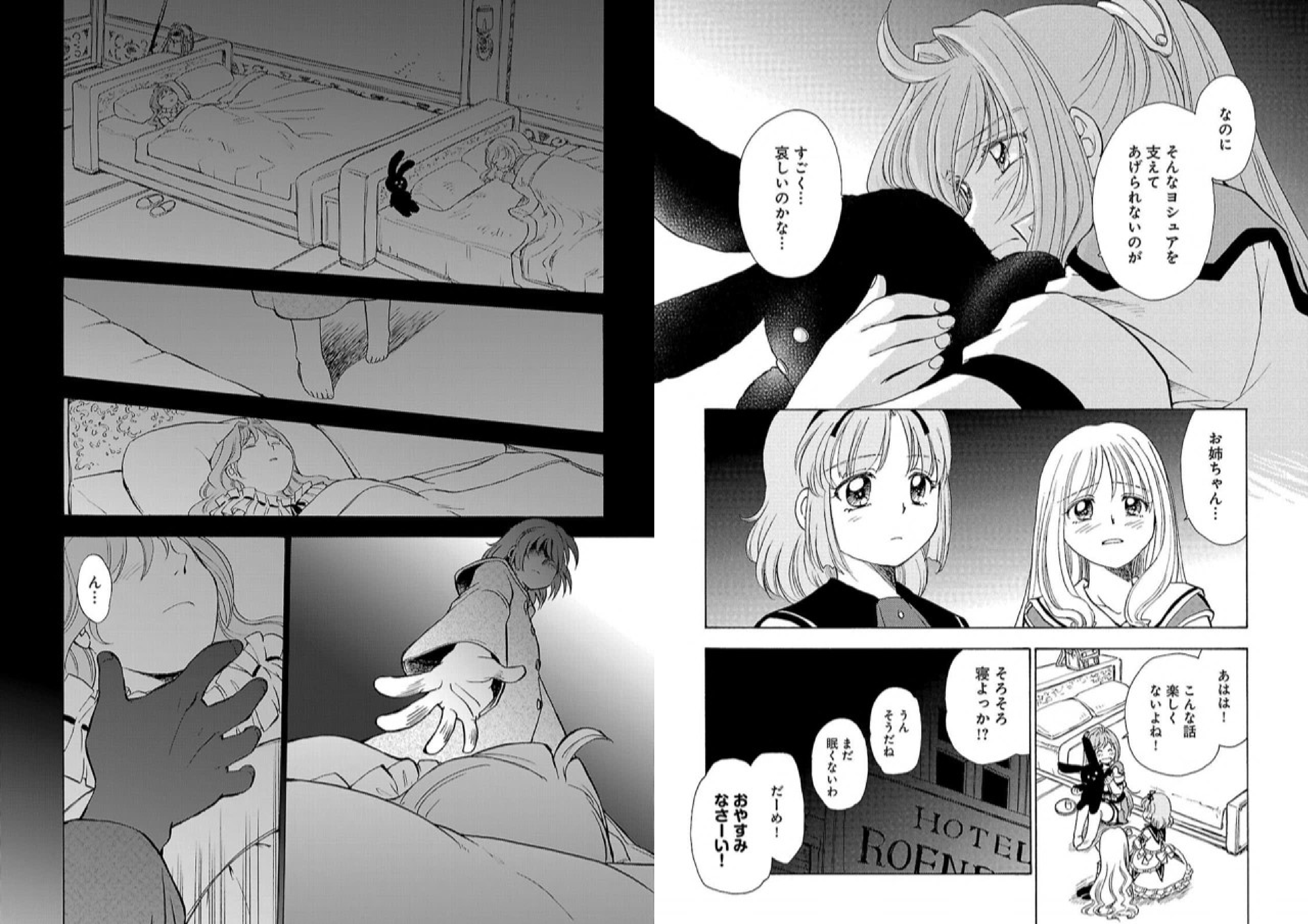
ひえ――
も…もう お姉さんの お茶は 結構よ!?
まーまー
そう 言わずに――
ひとくちで いいから――
寝る前に 紅茶は ちょっと…
さあっ どうぞ!
うへぇ
めしあがれ♡
あれ?
今朝のと 全然違う…
どうしたの これ…!?
すっごくおいしく お茶を淹れる 先生がいてね
火を 止める タイミングが 長すぎます
やり〜なおし!
やり方を 教わってきた んだけど…
そんなこと してるから 帰りが 遅かったのね
お姉ちゃん ったら…
お仕事で… 疲れてるのに…
ありがとう お姉ちゃん
とっても おいしいよ!
よかった!
それで? それで?
それから 何して 遊んだの!?

そーなんだ！
それじゃあレンちゃんは
んもうっ
さっきからレンのことばっかりっ
レンはお姉さんのお話が聞きたいわ
お姉さんは今日はどんなことをしていたの？
んー…！
あたしは…色んな場所で情報収集って感じかな？
あ…そうだ ごめんねレンちゃん
？
パパとママ…まだ見つけてあげられなくて
ううん
別にいいの

でも
だってパパたちはちゃんと迎えに来るって約束してくれたもの
それにね
パパとママはかくれんぼが上手なの！
だから
エステルお姉さんがいくら捜したって
簡単には見つからないと思うわ
あ…
あはは そっか
お姉さん…

ごめんなさい
へ？
レン…いけないことを言ったみたい？
ええ？
だってお姉さんとっても哀しそうな顔
違う！違う！
そういうつもりじゃなくて…
しゃん
…実はね…
あたしにもどこ行っちゃったかわからない家族がいるの
その人のこと捜してるんだけどなかなか見つからなくて…
それでつい…思い出しちゃったのよ

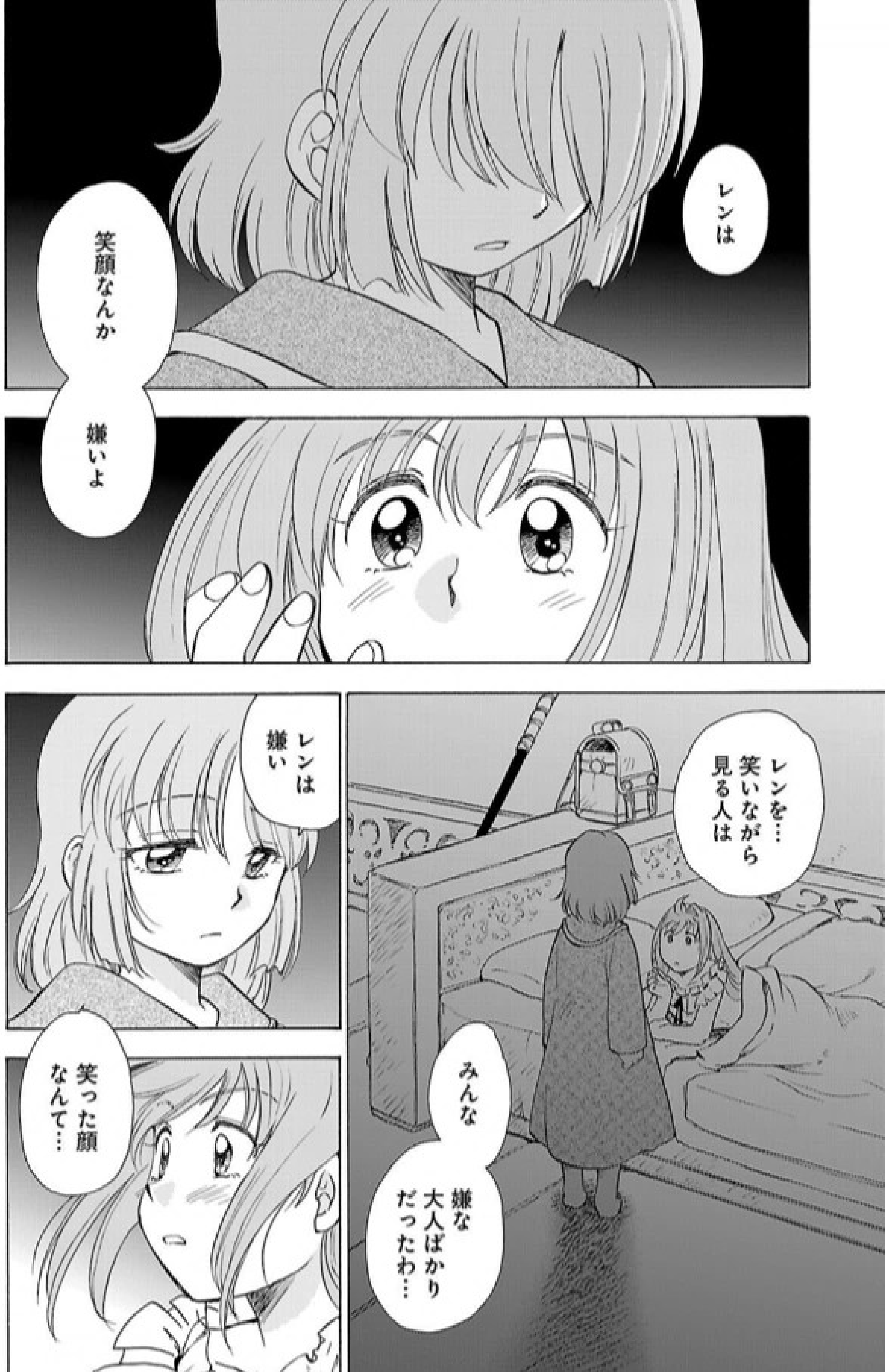
その人が見つからないから哀しいの？
ううん…それは平気！
何年かかっても絶対連れ戻すって決めてるから！
それじゃあどうして？
平気なのに…どうして哀しいの？
あたしは平気だけど…
きっと…
ヨシュアは無理してると思うから…


なのに
そんなヨシュアを支えてあげられないのが
すごく…哀しいのかな…
お姉ちゃん…
あはは! こんな話楽しくないよね!
そろそろ寝よっか!?
うん そうだね
まだ眠くないわ
だーめ!
おやすみなさーい!
HOTEL
ん…

……
…どしたの？
レンちゃん
…だって…
お姉さんが悪いのよ…
紅茶なんか…
寝る前に飲ませるから…
ふえーん
ゆさ
ちっとも眠れない〜
ゆさ
ゆさ
どうしてくれるのよぉぉ〜〜

紅茶ってそういうものだっけ？
知らなかったの？
なんにも知らないくせに他人に施そうとするなんて
あきれたっ
えー
紅茶にしても
パパとママのことにしたって…
お姉さんってほんと…
おせっかいで
人のことばっかり…
ごめんね…嫌な気持ちにさせちゃった？
あたしってばつい人の都合とか考えなしに動いちゃうのよね…

でも…
あたしのお茶を
おいしいって
飲んでくれて
あたし
すっごく
嬉しかったのよ
レンちゃんの
パパとママを
早く見つけて
あげられたら
レンちゃんは
今よりもっと
かわいく笑うん
だろうなぁって…
そうやって
誰かが笑ってくれたら
あたしも嬉しいの
あたしは
みんなの笑顔が
大好きだから


レンは
笑顔なんか
嫌いよ
レンを…
笑いながら
見る人は
みんな
嫌な
大人ばかり
だったわ…
レンは
嫌い
笑った顔
なんて…

レンちゃん!!
びくぅ!
あたしは!?
がしっ!
あたしのことも
…嫌?
……
レンのお願いなんでも聞いてくれるなら…
考えてあげなくもないけど…
例えば?
……
じゃ…じゃあ……
お姉さんのこと「エステル」って呼び捨てにしても…いい?
その代わり
レンのことも
レン…って呼んでも
…いいわよ?
レン!

レーン♡
ぱた
ぱた
ぱた
へんなのっ
ふふふふふ
おやすみ
レン
また明日ね

あ
いたいた
こんにちは ナイアル！
なんだよ！ 王都に来てたのか!?
ちょっと聞きたいことがあって…
今日はドロシーと一緒じゃないの？
あれっ
あいつは取材でボース地方に行ってるよ…
ナイアルはついてかなくて大丈夫なの!?
おまえな…俺をあいつの保護者か何かと勘違いしてるだろ…
実際そうじゃない？
うっせ！
そういうおまえはどうなんだよ！

リベール通信社は託児所じゃねえんだぞ！
神聖な職場にガキんちょなんか連れてくんな！
それってレンたちのこと？
失礼なオジサンねぇ
オジ!?
言葉遣いがとっても下品だわ
お…お子様はとっととお帰り願えませんかね？
ひどいわ！
レンはエステルと一緒にいたいだけなのに！
うぐゥゥ…
ほら ティータ！
ティータもなんとか言ってあげなさいな！

わたしは…ほんとはお仕事の邪魔しちゃいけないかなぁ…って…
あらティータ！
今日は一日エステルにつき合うって約束したじゃない？
それは…そうなんだけど〜…
レンちゃんってばぁ！
どうしてお姉ちゃんのことエステルって呼び捨てにしてるのぉ!?
いつのまにそんななかよしにっ
あらあらぁ
今ごろ気づいたの？
ティータは仲間はずれなんだから♡
うふふふ♡
あうーっっ
ひどいよーっ レンちゃーんっ
やーん
ちびっこはちぃと向こうに行ってろ!!
がーっ
…で？
俺に聞きたいことってのは？
ごめんなさい
ぶーっ

こいつがリベール通信社に届いた脅迫状だ
同じ物がうちも含めて全部で9箇所に送られてるらしいな
うん
他の施設にはジンさんたちが話を聞きに行ってくれてるんだけど…
公にはされてない条約関係施設を調べてその全部に脅迫状を送るって
やっぱりいたずらの度を超えてると思うのよ
犯人は一体なんの目的で不戦条約を潰そうとしてるのかしら…？
記者としての経験から言わせてもらうとな

俺は今回の犯人は愉快犯だとにらんでる
愉快犯!?
こんなに…手の込んだことしてるのに!?
その脅迫状にはリアリティがないのさ
リアリティ?
脅迫状ってのはな
具体的かつ現実的な要求を掲げて初めて意味があるってもんだ
ぶっちゃけ「災いが起こるぞー」…だけじゃこっちも対応のしようがねぇし
当の俺らに危機感が伝わらなきゃ脅迫にはならねぇだろ?
犯人が本気で条約を妨害したいようには思えねぇんだよなぁ…
世間を騒がせて喜んでるガキの仕業なんじゃねぇか?

ただまぁ…時期が時期だからな
警戒するにこしたこたぁねぇさ
実際問題不戦条約をよく思わない輩もいるだろうし…
その筆頭だったリシャール大佐は逮捕されたとはいいえ
彼の部下のカノーネ大尉やロランス少尉はいまだどこかに逃走中なんだしな
ともあれ新生王国軍と遊撃士協会のタッグには期待してるぜ
早くいい記事書かせてくれよ♡
うん!
任せといて!
あ
そうだナイアル!
実はもうひとつ聞きたいことがあって…
あの女の子の…

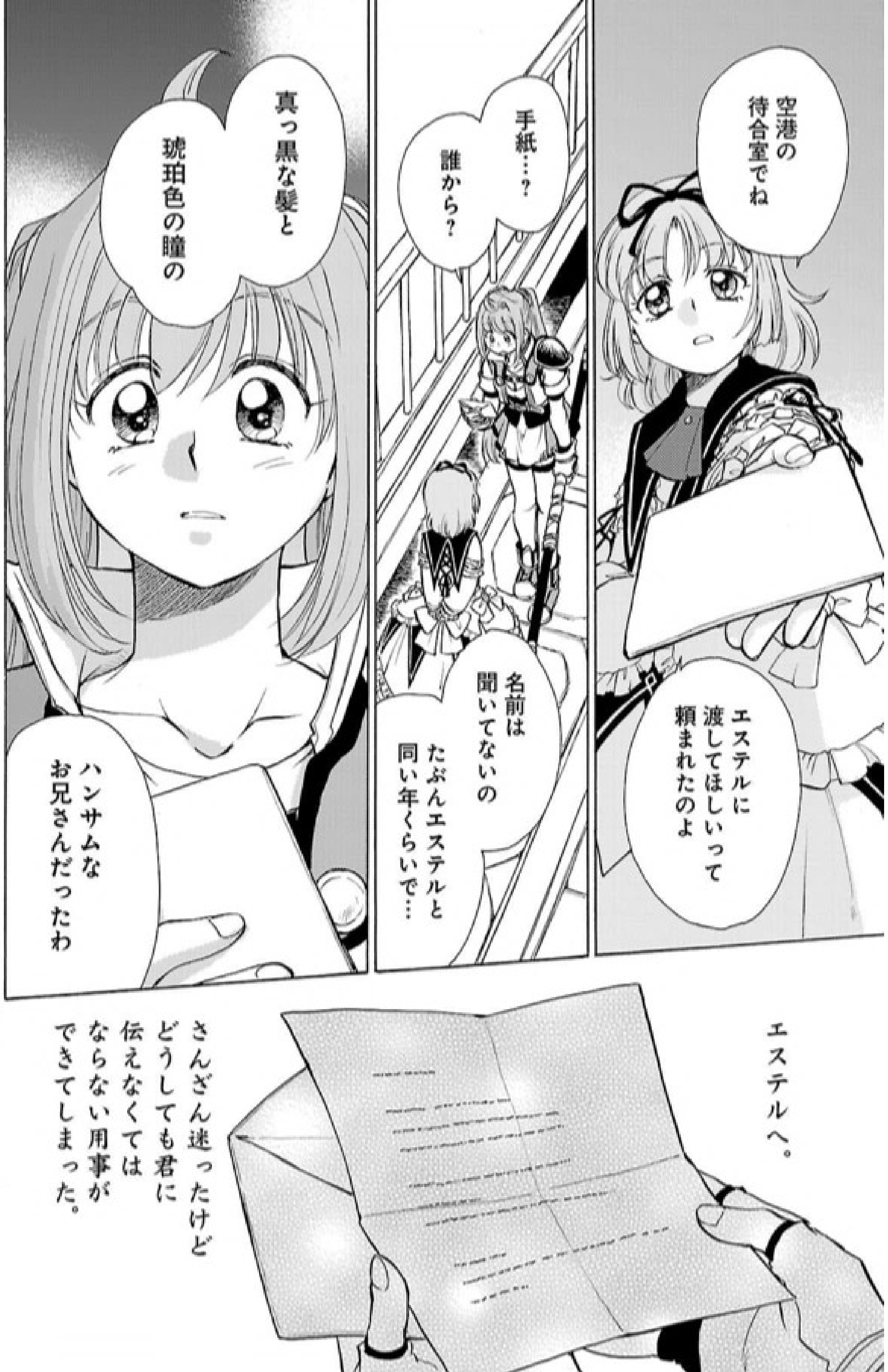
あれ？
レンは？
えっ？
レンってば！勝手に外へ行っちゃうなんて！
捜してくるからティータは協会で待っててくれる？
ジンさんたちが戻ってきたらこのこと伝えといて！
ほんとにもう…！

どこ行っちゃったのよレン…
自分の知らない街で…

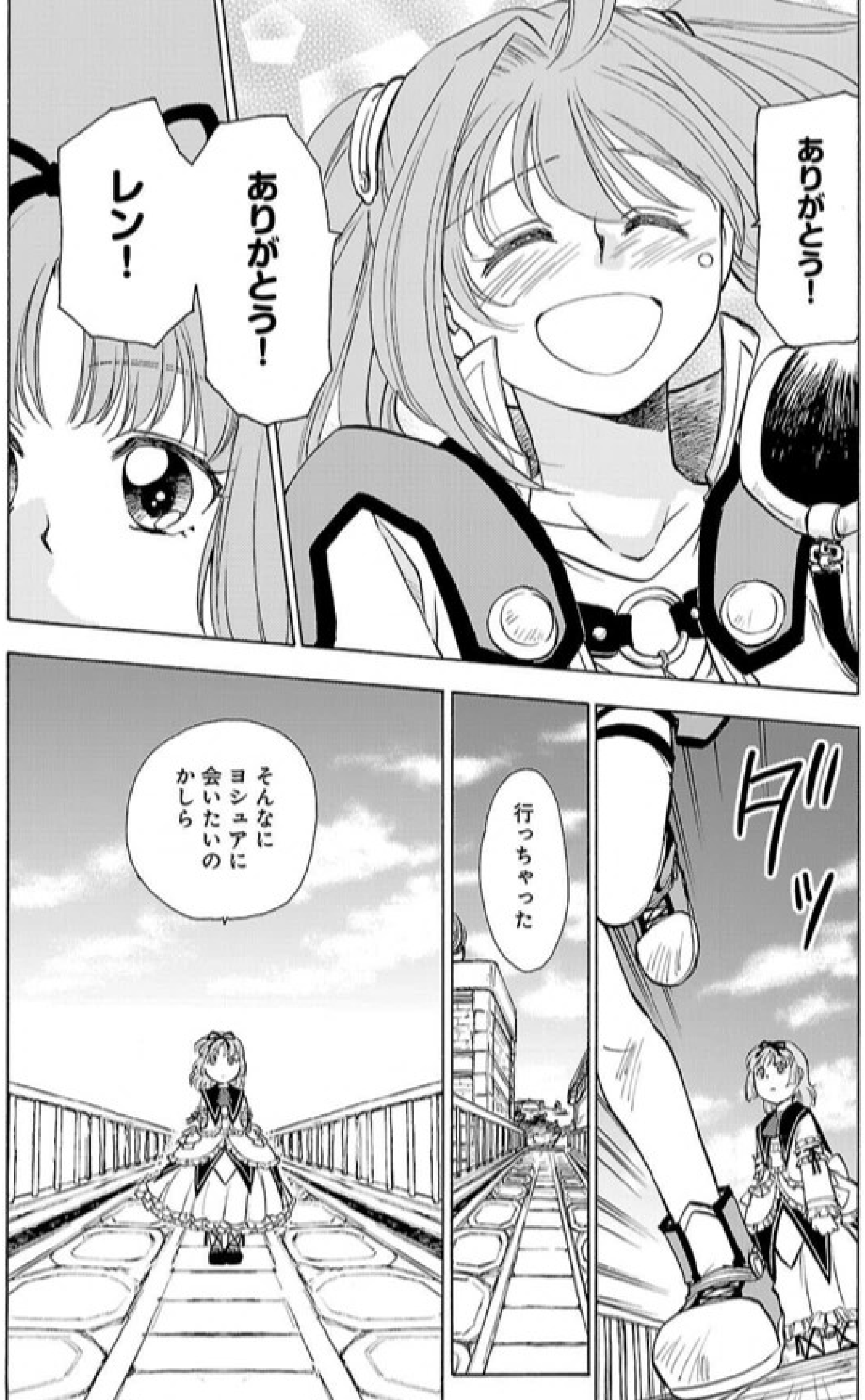
それらしいご夫婦がクロスベル自治州で…
飛行船…
まさか…
LANDINGPORT
GRANCEL
レン！
レーン！…

レン…
エス…
こら!!レン!!
いきなりいなくなったらダメじゃない!!
ひくっ
だって…
オジさんが帰れって言ったから…
でも…
レンの帰るところは
ここにはないから…

そっか…
ひとりにしちゃってごめんね
さ！遊撃士協会に帰りましょ！
ねぇ…エステル
ん？
実はエステルに
預かり物があるの

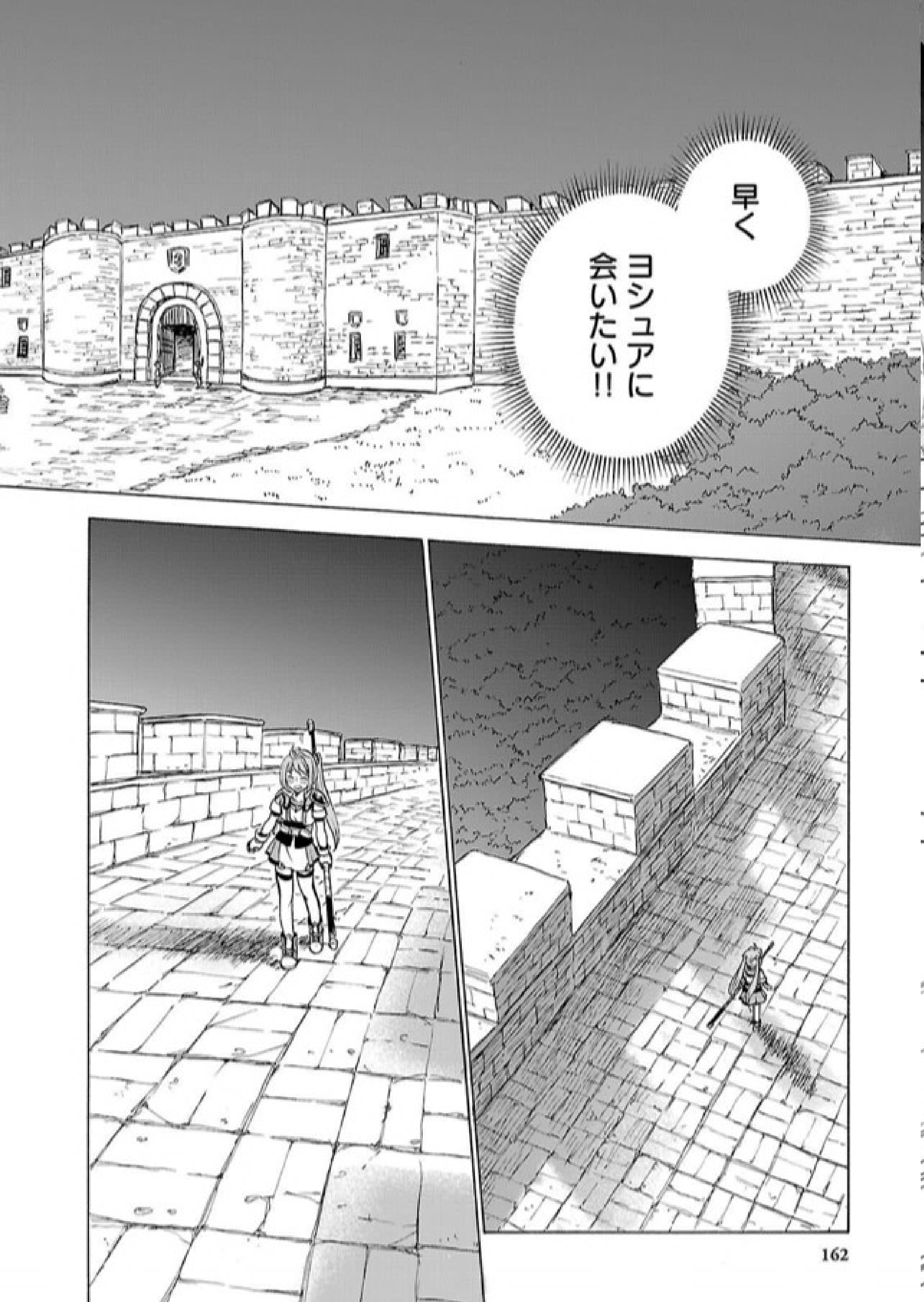

空港の待合室でね
エステルに渡してほしいって頼まれたのよ
手紙…？誰から？
名前は聞いてないの
たぶんエステルと同い年くらいで…
真っ黒な髪と琥珀色の瞳の
ハンサムなお兄さんだったわ
エステルへ。
さんざん迷ったけどどうしても君に伝えなくてはならない用事ができてしまった。

あんな別れ方をして虫のいい話だとは思うけど
今日の夕方グリューネ門側のアーネンベルクの上で待っている。
ふたりきりで会えないだろうか。
ヨシュア…！
ヨシュア？
さっきのお兄さんが昨日言ってたヨシュアなの？
筆跡も…似てる…
ま…間違いないと思う……
どうしよう…レン……
ヨシュアが…あたしに会いたいって……
はっ
グリューネ門ってところはここから遠いの？
もうすぐ…夕方になっちゃうけど…
協会へならレンひとりでも戻れるわ
ティータたちにはレンがちゃんと伝えといてあげるわよ？

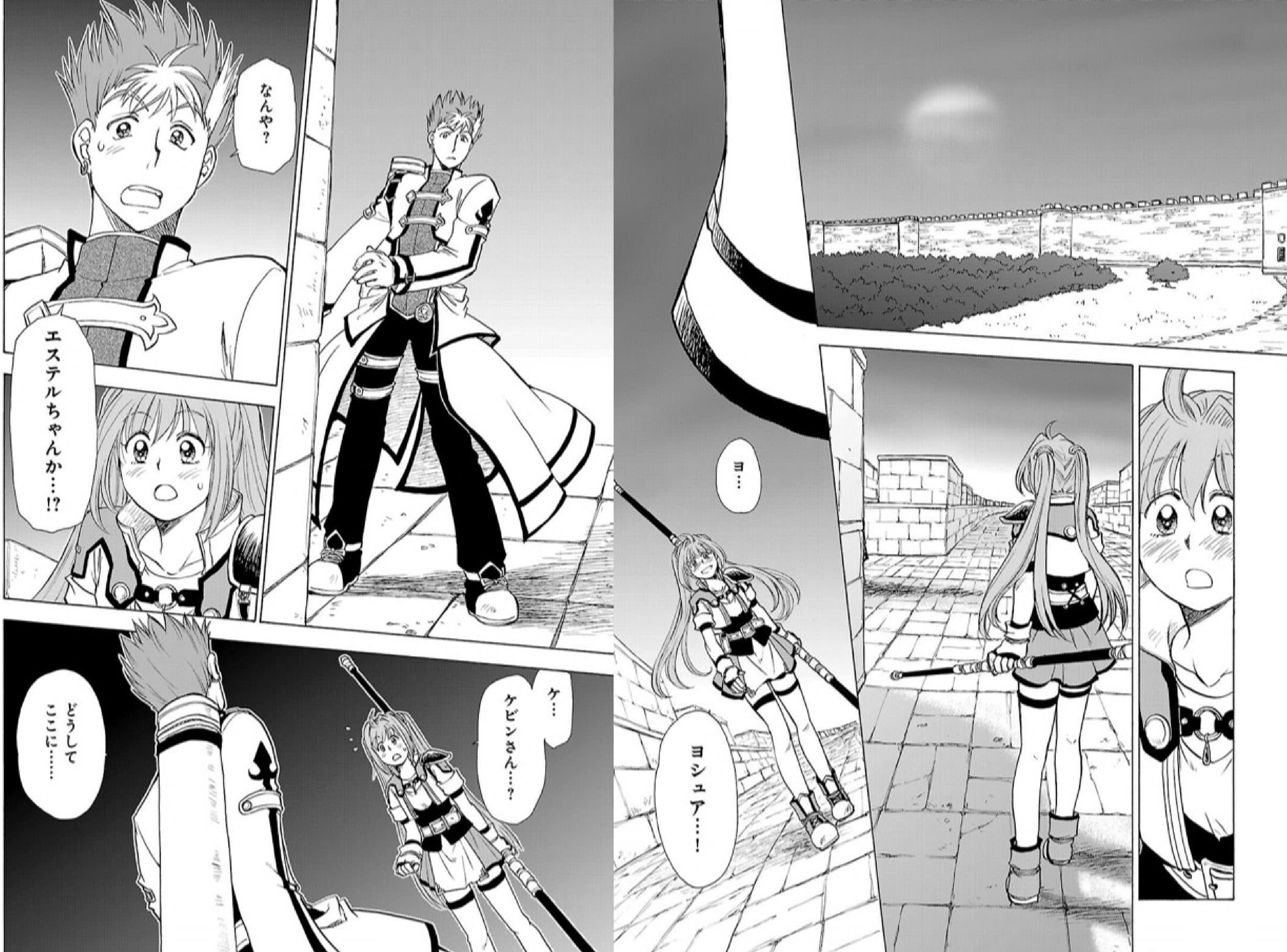

ありがとう！
ありがとう！
レン！
ダッ
行っちゃった
そんなにヨシュアに会いたいのかしら

エステル
待っている
ヨシュア!!

ヨシュアが来てる!!
会いたいって言ってる!!
でも…どうして城壁で?
どうして手紙なんか
どうしてレンに…
ああ もう
そんなこと どうだっていい!!

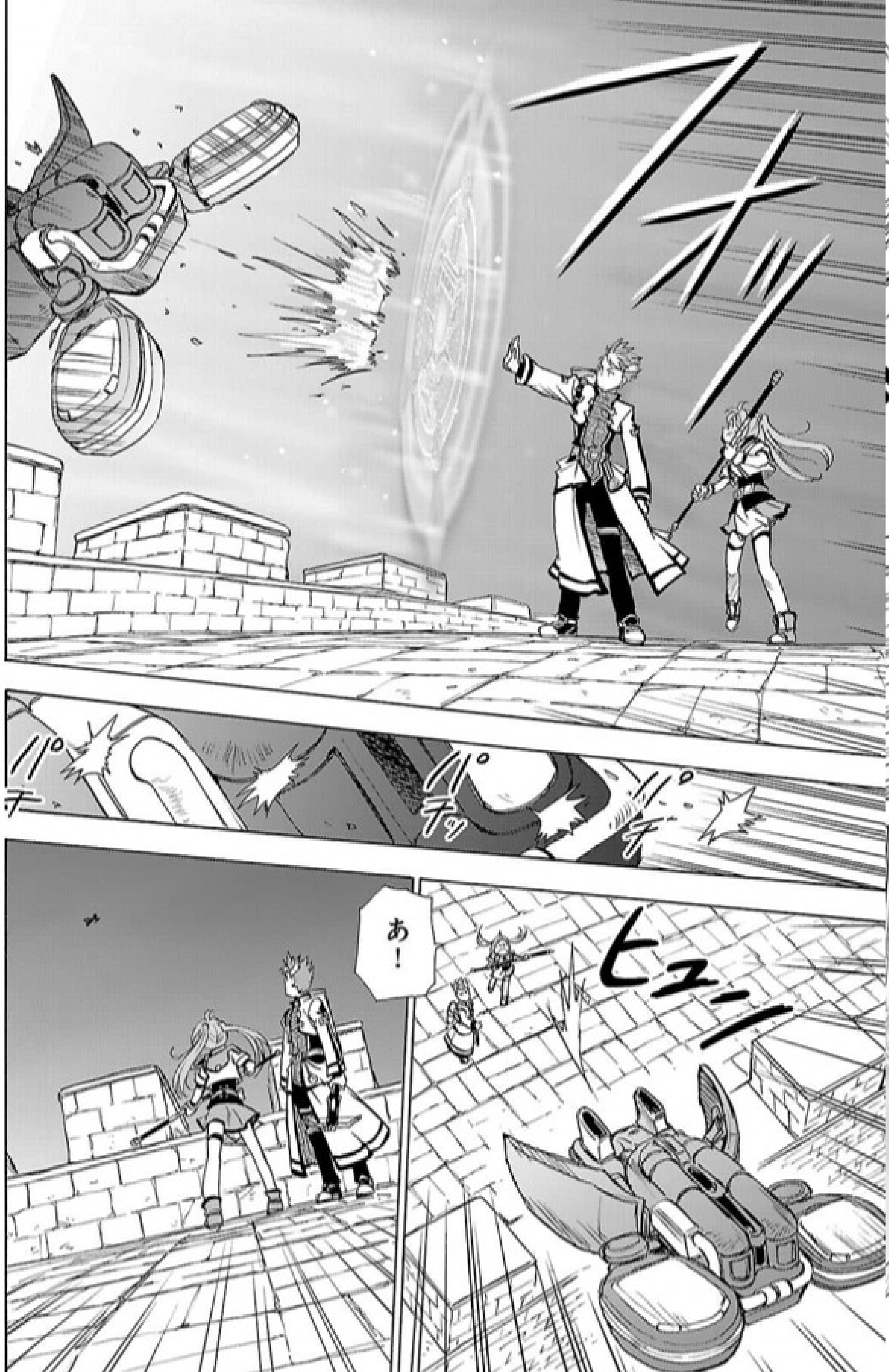


早く ヨシュアに会いたい!!


ヨ…
ヨシュア…！
なんや？
エステルちゃんか…!?
ケ…
ケビンさん…？
どうして
ここに……

…ヨシュア！
ねぇ ケビンさん！
ここで誰か他の人に会わなかった!?
誰かて…
まさか エステルちゃんも ここで待ち合わせ してんのか!?
え…？
あたしも …って？
ど… どういう こと…!?
こういう こと…
みたいやな！
え!?

なに!?
あれ!?
ズ
こっちに来るわ!!
フォン


フォッ
パチ
パチッ
パチ
あ!
ヒュン

何!? 今の!?
んー
導力器で動く人形兵器ってやつやろなぁ
に…っ 人形兵器!?
そーやな… グランセル城地下の封印区画におった「環の守護者」…みたいな?
あれの現代版…ってとこかな?
一匹逃してしもたけど… あっちは王都の方角やんな…?
しもたなー やっぱり狙いは王都やったかー
こら あかんわ エステルちゃん! 急いで王都に戻ろ!
へ!?
でも… あたしは…
ヨシュアから手紙をもらって…
ずいっ

オレもや
この手紙で
オレもここへ呼び出されたんや
で…でも あたしのはレンがヨシュアから預かって…
それ… ほんまに本人やったんか?
だって… 黒髪で琥珀の瞳で…
似たような特徴の人間を用意させたのかもしれへんで?
じ…字もヨシュアのに似てるし…
筆跡なんざある程度は似せられるもんや…
動揺してる人間を簡単に騙せるくらいにはな

確実に言えるんは
王都におったオレとエステルちゃんを同じ封筒使ってこんな街はずれに誘い出して
そやけど本人は姿を現さず代わりに人形兵器が襲いかかってきた…ってことやな
…まあ要するに
お互いハメられたっちゅーことやね

ふざけんじゃな…
落ち着き!
エステルちゃん!
ええか?
ここで熱くなったら相手の思うツボや
自分を見失ってしもうたら…
もっと大事なもんまで失ってしまうで!
おい!
とにかく今は…
うん
ええ娘やな
そこのおまえたち!

もしかして
さっきの爆発音は
君たちなのかい？
…というか
何者だ!?
こんな時に
ここで何を
している!?
あー
あ
あ
あの
あたしは…
お騒がせして
えらい
すいません!!
実は
この
かわいらしい
彼女！
こう見えて
凄腕の遊撃士
でして—!
極秘の任務で
ある連中を
捜査してたとこ
なんですわ
ある連中!?
なんだ
それは!?
それが…
《結社》とかいう
正体不明の
奴らでしてな

ケビンさん!?
そいつらの
手掛かりを
追ってここに
来てみたら
なんやけったいな
奴らに襲われて
しまいましてん
結社？
軍と協会が共同で
極秘に調査している
闇の組織のことだ
なるほど
……
…とすると
先程 警備本部を
襲ったのもその
結社の者たちなのか!?
ええ!?
あ…
そっちでも
なんか
あったんですか!?
実は
武装した集団が
エルベ離宮に
襲撃してきた
らしいんだ！
あんで
すって
——!?

幸い
シード中佐によって離宮は守られたようだが…
現在も逃走中の集団を追跡しているらしいよ！
こりゃえらいことになってきたわ
オレらもいったん協会に戻った方がええかもな
ああそうするがいい！
この付近の警戒は我々に任せてくれ！
おおきに！頼みますわ！
ほな行こか！
エステルちゃん!!
…うん！

すっかり夜になっちゃった
王都は…
まだ何も起きてないみたいだけど…
協会の方に連絡が入ってるかもしれへんで？
うん！
聞いてみる！
そこの方…！

え？
誰…!?
私は公爵閣下の執事を務めさせていただいている
フィリップと申す者です
お尋ねしたいことがあるのですが…
どこかでデュナン公爵閣下を見かけていませんでしょうか？
はあ？
この時間になっても城にお戻りにならないのです
心当たりはすべて捜してみたのですが
ああもう!!
エルナンさん？
とにかく中に入って！
受付のエルナンさんに
捜査の依頼を…
エ…

エルナンさん!?
どうしたの!?
エルナンさ…
みんなは…!?
みんな!!
無…

うそ…
なんで…
一体…何がどうなってるの
娘と公爵は預かった。
返してほしくば「お茶会」に参加せよ。

「お茶会」…？
娘と公爵は預かった…
…ですって!?
あちゃー
はっ
全員やられてもたみたいやね
全員!?
執事さん！みんなの介抱手伝ってくれへん!?
かしこまりました！

レンは？
レンは…どこ!?
協会に戻ってるはずなのに…
まさか
預かった娘って…！
どうやらその子と公爵さんは協会を襲った犯人にさらわれてしもたようやな…
閣下が!?
そんな…
レンはただの迷子で…
王都の事件なんかなんの関係もないのよ!?

まあ…ちょっと落ち着こか
さすがに同じ手ぇに引っかかるほどアホな真似は…
フィリップさんっ!!
公爵さんは必ず助けるわ!!
ちょ…エステルちゃん…!?
だから協会のみんなのことお願いしてもいい!?
あたし
「お茶会」に行ってレンを取り戻してくる!!
ちょーっ待ちー!!
エステルちゃーん!!
ケビンさん!
「お茶会」ってどこでやるんだと思う!?
んんっ
そやなー
…一連の出来事が「お茶会」のための布石やとしたら…
一番あり得るんは
やっぱ…グランセル城かな?
離宮への襲撃は軍警備本部を足止めするための陽動やろし
そこまでせんと押さえられんよーな場所言うたら
王城しかないんとちゃうか?
くるっ!!
わかったわ!!
…って!
わかったのになんでお城と逆の方向に行くんー!?
グランセル城なら王国軍の兵士さんがしっかり守ってくれてるもの!
今のお城は悪い輩に簡単に制圧されるような場所じゃないわ!

それでも お城を 押さえるつもりなら
犯人だって 絶対に切り札を 用意してるはず!
それを 探し出して
始まる前に ぶっ飛ばす!!
そやけど王都は だだっ広いで?
どこを どうやって 探すん…
ん?
ピューイ
んー
ジーク!!
おお?
なんなん!? あの鳥!?
ジークは クローゼの 友達なのよ!
きっと クローゼたちを 襲った犯人を 追跡してくれて たんだわ!
まじで!?
とっても 頼もしい 助っ人なの!!
自分ら すごいな!!
エステル ちゃん! あそこ!
ああっ!!

王国軍情報部!!
あんたたちの仕業だったのね!!
レンと公爵を返しなさい!!
ははっ!
公爵閣下はこの中だ!
できるものなら取り返してみるがいい!
さあ!!
お出ましだぞ!!
きゃあ!
やった!!
こいつは…!
こ…

せ…
戦車!?
どうしてこんなものがリベール王国に!?
全く…どうやってここを嗅ぎつけたのか
遊撃士というのはよっぽど鼻が利くようね
カノーネ大尉!
あなたが事件の首謀者だったの!?
いやだわ首謀者だなんて
まるで悪事を企む犯罪者のようね
戦車なんか持ち出して
一体何をするつもりなの!?
我々情報部は一貫して
リベールの正当な王位継承者であられるデュナン公爵閣下の即位を手伝っているだけよ
その証拠に……ほら
公爵閣下もとてもお喜びのご様子でしょう?
ドドドーンンン

そ…そんなことのために…
不戦条約を妨害したり…
関係ない子をさらったり…
ヨシュアの名を…騙ったりしたの…？
なんのことかしら？
……
こんな真似して王様になれるなんて本気で思ってるの!?
そうねぇ
そのためには女王陛下に認めていただかなくてはねぇ…
ですからわたくしたちはこうして準備を怠らず
機会が訪れるのをずっと待っていたのよ
その最たるが情報部が独自に開発していた導力戦車《オルグイユ》
帝国製戦車を凌駕する高機動高火力を誇りながらも
エンジンの出力不足で未完成のままここに保管されていたのだけれど…
まさかこのタイミングで…
アルセイユの新型エンジンが手に入るなんてね！
《オルグイユ》ならば堅固な城門もたやすく粉砕できる!!
城詰めの部隊など敵ではない!!
王城を占拠し!!
女王陛下を拘束できれば!!

リベール王国は
再び閣下のものになる!!
まずいで！あんなん街ん中走ったら大騒ぎや！
…ジーク!!
誰かにこのこと伝えてきて!!
バッ
なんとか…しなきゃ!!
あの戦車を止めなくちゃ!!

ドォーン
はははは！
もうしばらくのご辛抱ですわ！
閣下！
貴方はわたくしが必ずお救いいたしま…

!?
大尉殿！前方に何か…
どうやら間に合ったようだな
どうして…
あなたがここに!?
ユリア・シュバルツ!!
アルセイユの飛行訓練でレイストン要塞に行っていたのではなくって!?
王都で変事が起こるのを読まれたシード中佐から緊急の応援要請があってね
文字通り飛んできたわけさ
シード…！
ただの昼行灯かと思えば…！

そんな風に侮ったお前のミスだ
中佐はリシャール大佐と同じくカシウス准将の元部下だからな
……
そのようね…
その中佐の部隊もじきにこちらに到着する！
それでなくてもアルセイユ搭載の榴弾砲相手に
戦車単機では太刀打ちできまい！
おとなしく投降した方が身のためだぞ
カノーネ！
まっすぐで…凛とした気性は士官学校の頃のまま
わたくし…あなたのそういうところは嫌いではなかったわ
相変わらずね ユリア…

でも…
わたくしの邪魔をするなら
容赦はしない…
わたくしは閣下のために
命を捨てる覚悟ができている!!
カノーネ!!
構わないわ!!
《オルグイユ》このまま全速前進!!
グランセル城を陥落させるのよ!!
く…
…仕方ない
榴弾砲発射用意!!
戦車の足を止めるぞ!!

撃…
あれ!? 導力灯が…
え!? どうして!?
だめです！全機能が停止しました！
なんだと!?
導力停止現象!?
《ゴスペル》か!!
なぜおまえが《ゴスペル》を持っている!?
「実験」を手伝うのと引き換えにある筋から入手したのよ
なるほど
そちらの導力器はちゃんと停止したようね？
く…
肝心の戦車だって役立たずに…
だがそんなことをすれば

馬鹿な!!
どうして動ける!?
驚いたでしょう!?

これは周囲の導力器(オーブメント)を停止させながらも接続した機体は動かし続けるユニットよ!
新しい《ゴスペル》を利用すればこんなこともできるんですって!
なんてでたらめな力だこと!
これで「実験」は大成功ですわね!!
実験って
まさかこれも《身喰らう蛇》の「実験」なの!?
結社が大尉に力を貸してたなんて…!
なんやあれ!自分だけ動けるて反則やん!
ケビンさん
しゃーないな!
こうなったらこっちも奥の手や!!

それって…ダルモア市長の!?
禁制の古代遺物(アーティファクト)「封じの宝杖」や!
で…でもそれゴスペルには勝てなかったんじゃ…
正しい使い方してたらな!
え!?
…緊急事態やからしゃーないよなっ!!
もはやわたくしを止めるものは何もない!!
カノーネ!!
残念だったわねユリア!
城が落ちるのを指でも咥(くわ)えて見ていなさい!
バッ
そうはいかへんでお姉さん!!

さすがの《ゴスペル》でも古代遺物(アーティファクト)の最後っ屁にはかなわんやろ!!
喰らえ!!
ブアッ
きゃあぁ!!
なんだ!?

パッ
導力停止現象が止まったのか!?
今や！ユリア大尉！
ゴスペルがショートしてる間に……！
榴弾砲動作確認!!
全砲発射用意!!
大丈夫!!
ばっ馬鹿な…
いけますっ!!
…撃て!!!

ドオオーン
ォオオオオ

大尉殿!
ご無事ですか!?
大尉殿!!
や…やってくれたわね…
カノーネ
おまえの負けだ
カノーネ!
ふざけるな!!
こんなことで!!
閣下の解放をあきらめられるものですか!!
…
どうして…そこまで…
あんな…公爵閣下のためなんかに…
カノーネ…
おまえの本当の目的は…
はっ
そうよ
レン!!
レン…
あんたたちが協会からさらった白いドレスの女の子よ!!
まだ戦車に閉じ込めてるんでしょ!?
協会から…
レンを返してっ!!
レンは無事なの!?

う……
…ふふ……
そういうこと…だったの……
閣下のために…数々の謀略を成し遂げてきたこのわたくしが…
あんな小娘ごときに…
くすくす
小娘なんて失礼ね
まんまと利用されてたなんて——
レン!?
な…何やってんの!?
そんなところに登って…!!
待ってて!!今助けてあげるから!!
うふふ
その必要はないわ
だってここが一番いい席だったんですもの
最上の場所で余興を楽しむ…
「お茶会」を開いた主人として当然の権利だと思わない？

今…
なんて…
「お茶会」…？
やっぱり気づいてなかったのね
執行者No.XV《殲滅天使》レン
レンが今宵のお茶会の主催者よ
執行者!? あんな子供が結社の一員だと!?
ま…まさか…
そんじゃあオレに手紙くれたんも嬢ちゃんやって言うんか？
ええレンよ
だって《ゴスペル》の実験をするだけじゃちっともおもしろくないんだもの
だからお客様を招待してにぎやかな「お茶会」を催してみたの！
どう？
楽しんでいただけたかしら!?
…うそ…
お父さんたちはどうしたのよ!?
あの人たちは…
こんなこと知ってるの!?
……
で…でも…
だったら…
レンのパパとママは!?
…ああ…
これのこと…

こんなの
レンのパパとママじゃないわ
もう用ずみよ
え……
あ…
…あ…
ああ…
あんた
何をやってんのよおっ!!
さてと
ほんとのパパとママを呼ばなくちゃ
来て
《パテル＝マテル》
なんや…？

上だ!!
ダ
ひいいっ
で…っ でかい!!
なっ 何あれ!?
《ゴスペル》が!
ありがとう 《パテル=マテル》
約束通り レンを迎えに 来てくれて
すっ

これがレンの
パパとママ（パテル＝マテル）
パパのように大きくて
ママのように優しいの
それ以外のパパとママなんて
いらない
どうしてよレン…！
どうしてこんなことを…
ほんとはねエステルのこと
殺しちゃおうかなって思ってたの

だって教授が
ヨシュアが結社に帰ってこないのはエステルのせいだって言ったから――……
…でも…
楽しかったから
今回だけは許してあげるわ
さあパテル＝マテル！
帰りましょ！

ドオッ
レン!!
え!?
レッ
レンちゃん!?
それでは皆さま
今宵はお茶会に出席していただきまことにありがとうございました
レン!!
待って…

レーン!!
第1部 完

英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡
TRAILS IN THE SKY
SECOND CHAPTER
SC
漫画 啄木鳥しんき
Kitsutsuki Shinki
原作 日本ファルコム
Nihon Falcom Corp.

英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡
TRAILS IN THE SKY
SECOND CHAPTER
SC

英雄伝説
THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡
TRAILS IN THE SKY
SECOND CHAPTER
SC ③

電子版オマケ

本電子書籍の「電子版オマケ」画像は、底本のカバー・表紙・帯・奥付などに掲載されていたイラスト、漫画などをまとめて収録したものです。

電子版オマケ②

電子版オマケ③

電子版　ファミ通クリアコミックス

英雄伝説
空の軌跡SC（3）

漫画／啄木鳥しんき

原作／日本ファルコム

2016年10月15日　発行

発行人　青柳昌行
発行　株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話　0570-060-555（ナビダイヤル）
http://www.kadokawa.co.jp/
編集　コミッククリア編集部
デザイン　ナルティス：浜崎正隆

©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©2016 Kitsutsuki Shinki
本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
ファミ通クリアコミックス『英雄伝説 空の軌跡SC（3）』
2016年10月15日初版発行

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、ホームページ上に転載したりすることを禁止します。また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に予告なく変更される場合があります。
本作品の内容は、底本発行時の取材・執筆内容に基づきます。

また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

電子版オマケ④